

本章では、第 2 章 P11「発達の段階に応じた防災教育」の目標に準じて、各校種ごとの目標及び防災教育年間計画例、具体的な授業展開例を示している。目標の設定にあたっては、学校の立地環境や施設設備の状態、地域との関わりの状況や児童生徒等の実態等に応じ、適切に行われることが重要である。また、「発達の段階に応じた防災教育」の目標は、幼稚園から高等学校までを見据え、知識や技能の習得、意識や行動、態度等について、それぞれの校種の段階による指導が積み重ねられることによって達成されるものとして示されている。例えば、中学校の目標は幼稚園や小学校の目標が達成された上に設定されているのである。このことから、各学校において目標を設定する際には、児童生徒等が前学校段階や地域・家庭において身につけている防災に関する態度や知識・技能の程度（レディネス）を確認し、その実態に応じたものにすることが必要である。また、年間計画を作成する際には、教科等の年間指導計画、学区や都道府県・市区町村の防災に関する行事等との調整を図る必要がある。

各学校においては、本章の例を参考に、学校や地域の実情を踏まえた防災教育が展開されることが望まれる。

1 幼稚園

(1) 防災教育年間計画例	52
(2) 防災教育授業展開例	54
①日常生活の中で安全（防災）に関する意識や態度を高める指導	54
②地震発生時の危険等の理解を深める指導	57
③園外保育（防災の視点を示した計画案）	59
④避難訓練「全園児一斉指導 地震後の引き渡し訓練」	62
⑤避難訓練「全園児一斉指導 地震発生から津波警報発表時の避難訓練」	71
⑥避難訓練「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動における避難訓練（地震想定）」	75

2 小学校

(1) 防災教育年間計画例	80
(2) 防災教育授業展開例	82

①安全な暮らしとまちづくり	社会科	82
②洪水の危険について知ろう	理科	84
③もっとまちをしりたいね	生活科	86
④けがを防いで簡単な手当ができるようになろう	体育科	88
⑤わたしにできること	道徳	91
⑥オリジナル防災マップをつくろう	総合的な学習の時間	94
⑦わたしたちの地域の自然災害	総合的な学習の時間	96
⑧わたしたちの暮らしと火山	総合的な学習の時間	98
⑨火事になったら	特別活動 学級活動	100
⑩地しんが起ったらどうするの	特別活動 学級活動	101
⑪休み時間に大地震おきたら	特別活動 学級活動	103
⑫どうする？大雨だ、強風だ、かみなりだ	特別活動 学級活動	105
⑬いざという時の備えは	特別活動 学級活動	108
⑭町の中でぐらっときたら	特別活動 学級活動	110
⑮火災を想定した避難訓練	特別活動 学校行事	112
⑯地震を想定した避難訓練（緊急地震速報）	特別活動 学校行事	114
⑰津波を想定した避難訓練	特別活動 学校行事	117

3 中学校展開例

(1) 防災教育年間計画例	120
(2) 防災教育授業展開例	122
①自然と郷土	社会科 122
②自然の恵みと災害	理科 124
③自然災害による傷害の防止	保健体育科 126
④安全・安心な生活のための技術	技術・家庭科 128
⑤過去が光って見えるとき	道徳 130
⑥総合的な学習の時間（防災教育）年間計画の例	総合的な学習の時間 132
⑦くらしの安全を守る（職場体験学習における防災学習）	総合的な学習の時間 134
⑧災害後の暮らし	特別活動 学級活動 136
⑨地震を想定した避難訓練（緊急地震速報）	特別活動 学校行事 138
⑩校内避難訓練（竜巻への対応）	特別活動 学校行事 140

4 高等学校展開例

(1) 防災教育年間計画例	143
(2) 防災教育授業展開例	145
①自然環境と防災 地理歴史科	145
②日本の自然環境 理科（地学基礎）	147
③応急手当の実践（心肺蘇生法を含む） 保健体育科	149
④安全に配慮した住生活 家庭科（家庭基礎）	151
⑤学校が避難所となった時にできること 工業科（課題研究）	153
⑥地域の災害と復興を考える 総合的な学習の時間	155
⑦地域と連携した複合的避難訓練 特別活動 学校行事	157

5 特別支援学校展開例

(1) 防災教育年間計画例及び障害のある児童生徒等の災害時に予想される困難と支援例	159
(2) 防災教育授業展開例	164
①安全に一人通学しよう～災害(地震災害)時も安全に避難帰宅しよう～ 自立活動	164
②地震を想定した避難訓練 特別活動 学校行事	166
③地震を想定した避難訓練 寄宿舎避難訓練	168
④大地震に備えて 特別活動 学級活動	170
⑤地震及び火災を想定した合同避難訓練 特別活動 学校行事	172
⑥防災マップ作り（地域探検） 特別活動 ホームルーム活動	175
⑦地震に強い家にしよう（参観授業） 生活単元学習	177
⑧防災マルチパーティションの作成 美術科	179
⑨災害時の「ほうれんそう」～緊急時のコミュニケーション～ 自立活動	181
⑩全校児童生徒集会～防災をテーマとした地域との交流～ 特別活動 学校行事	183
⑪総合防災訓練 特別活動 学校行事	185
⑫地震・火災を想定した避難訓練 特別活動 学校行事	187

幼稚園 防災教育年間計画 (例)

◆ 5 歳児の目標

- ・安全、危険な場所や行動が分かり、自分で考えて行動できるようになる。
- ・災害時に落ち着いて指示を聞き、素早く避難行動がとれるようになる。

◆ 主な指導内容

安全な場で身を守る姿勢や行動を素早くとる [ア] 災害発生時の危険状況が分かる [イ] 年下の幼児やお年寄りを思いやる気持ちをもつ [ウ]

1 学期	2 学期	3 学期
◇避難訓練（学年活動や引き渡し訓練を含む）【展開例⑤⑥】 ◇自分たちが使う新しい場や遊具・用具の使い方や生活の仕方を知る活動【展開例①】 ◇集団行動の仕方・約束を確認する活動 ◇教職員の話を読み、理解して取り組む活動【展開例①】 ◇友達とルールや手順に沿って動く活動【展開例①】 ◇小動物や植物に関心をもち関わる活動【展開例①】	◇避難訓練（引き渡し訓練、煙体験、起震車体験を含む）【展開例②④】 ◇教職員の話やルールを理解し、友達と力を合わせて一緒に取り組む活動【展開例②】 ◇季節の変化を感じ、安全に生活する活動 ◇小動物や植物に愛着をもち関わる活動	◇避難訓練（予告なし） ◇教職員の話を読み、自分たちで考えて取り組む活動 ◇教職員の話やルールを理解し、友達と団結したり競い合ったりする活動

◆ 4 歳児の目標

- ・安全に生活するための決まりが分かり、気を付けて行動できるようになる。
- ・災害時に教職員の指示を聞き、素早く避難行動がとれるようになる。

◆ 主な指導内容

災害時の避難の約束を守る [ア] 安全な場所や身を守る姿勢、行動が分かる [イ] 周囲の人の様子に関心をもって行動しようとする [ウ] 災害時の危険状況が分かる [イ] 年下の幼児やお年寄りを思いやる気持ちをもつ [ウ]

1 学期	2 学期	3 学期
◇避難訓練（5 歳児の見学後の学級活動、引き渡し訓練を含む）【展開例⑤⑥】 ◇幼稚園での生活の仕方（場や物の使い方、友だちとの遊び方）を知る活動【展開例③】 ◇集団行動の仕方・約束を知る活動【展開例③】 ◇教職員の話に興味をもって聞く活動【展開例③】	◇避難訓練（引き渡し訓練、煙体験、起震車体験を含む）【展開例④】 ◇集団行動の仕方・約束を知る活動 ◇教職員の指示や合図が分かって動く活動 ◇教職員の話に集中して聞く活動	◇避難訓練（予告なし） ◇教職員の話を読み、みんなと行動する活動 ◇ルールを理解し、友だちと動く活動 ◇自然現象に不思議さや驚きを感じる活動

◆3歳児の目標

- ・園生活を通して、安全と危険を意識していくようになる。
- ・教職員と共に避難行動がとれるようになる。

◆主な指導内容

災害時の避難の約束を知る〔ア〕 教職員の指示を理解して行動する〔イ〕 教職員と共に避難する〔ウ〕

1学期	2学期	3学期
◇避難訓練（5歳児の見学後に学級活動引き渡し訓練を含む） 【展開例⑤⑥】 ◇幼稚園での生活の仕方や場を知る活動 ◇幼稚園での遊び方（場や物の使い方、友達との関わり方）を知る活動 ◇教職員に親しみを感じて話を聞く活動 ◇教職員と一緒に体を動かす活動 ◇自然に関わる活動	◇避難訓練（引き渡し訓練を含む） 【展開例④】 ◇学級の人々の中で話を聞く活動 ◇教職員の合図を聞いて動く活動（集団行動の仕方・約束） ◇自然に関わる活動	◇避難訓練（直前予告なし） ◇学級の人々と一緒に話を聞く活動 ◇簡単なルールの中で動く活動 ◇自然に関わる活動



視聴覚教材の活用と発達段階に応じた防災教育（岡山県）

幼稚園展開例 1

日常生活の中で安全（防災）に関する意識や態度を高める指導（5歳児・5月）

1 意 義

幼児期の防災教育は、遊びや生活を通して命の大切さや防災に関する意識や態度を身に付けていくことが重要である。日常生活の中の様々な活動を通して、安全に関する意識を高めるための指導や援助を行う。

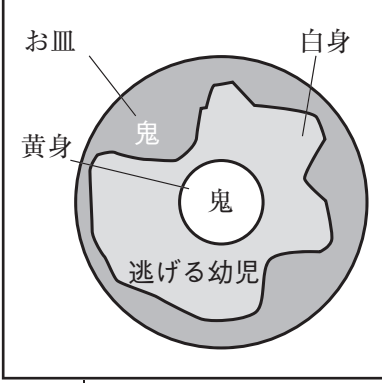
2 ね ら い

- （１）小動物の世話を通して、生き物に親しみ、生命の尊さに気付く。
- （２）危険な場所や危険な行動について気付き、安全に行動する。
- （３）自分の体を自分の思うように動かして遊ぶ。
- （４）ルールを理解し、周囲の状況に応じて素早く動く。
- （５）友達と力を合わせて活動に取り組む。
- （６）教職員の話を理解し正しく行動する。
- （７）自分の思いを言葉で相手に伝わるように話す。
- （８）周りにある物や人の動きを感じ、安全に行動しようとする。
- （９）危険を感じたら直ちに近くにいる教職員に知らせる。

3 展 開

（１日の生活例）

時間	幼児の活動	教職員の援助及び指導	環境構成及び配慮事項	安全教育にかかわる体験
9:00	（登園） ・教職員や友達と朝の挨拶を交わす。	・一人一人と挨拶の言葉を交わす。		挨拶 ・身近な人に親しみを感じ、応答する。 ・自分の気持ちを言葉で伝える。
9:30	○当番活動をする。 ・花の水やりをする。 ・小動物に触れたり声を掛けたりする。 ・餌にする野菜を切る。 ・水を入れ替える。 ・小屋内の掃除をしたりシートを取り替えたりする。	・幼児が見通しをもって生き物の世話を行えるよう手順を丁寧に指導する。 ・けがをしたときや危ないと感じたときは、直ちに教職員に知らせるよう指導する。 ・幼児の興味関心の違いを把握し、一人一人の気持ちに寄り添いながら生き物への愛着が深まるよう援助する。	・幼児が直接手を触れ、関わる場であるので、飼育小屋の衛生面について管理を徹底する。 ・幼児がゆったりとかかわれる場や時間を確保する。	当番活動 ・生命の尊さに気付く。 ・生物への関心を高める。 ・包丁、はさみ、ほうきの安全な使い方を身に付ける。 ・危険を感じたとき、教職員に伝える。 ・当番活動を通して、友だちと協力や分担をする。

11:00	○好きな遊びをする。 ・登り棒、鉄棒、うんてい、一輪車などの運動遊び ・鬼遊びやサッカーなどの集団の運動遊び ・砂場 ・基地ごっこ、おうちごっこ等 ・製作	・友だちと競い合ったり、目的を持って挑戦したりする様子を把握し、一人一人が安全に取り組めるよう援助する。 ・安全な遊び方のルールを確認し、危険を回避できるように気付かせる。 ・ぶつかり合ったり転んだりしないよう、また、非常時の通路確保の必要性などを伝え、他の遊びとの関係を配慮し、場を調整する。 ・遊具・用具の置き場が、災害時を考えた場所、整理の仕方になっているか確認する。	・毎朝、固定遊具の安全点検を行う。 ・衝突等の事故を防止するための通路確保、遊具の配置に気を配る。 ・十分走り回れるスペースを確保できるよう他の遊びと調整する。	固定遊具等での遊び ・様々な体を動かし、手足に力を入れたりバランスをとったりする。 鬼遊び等 ・ラインや友だちの動き、ボールの動き等に対応して自分も動く。 ・周囲の友だちの遊びや動きを見ながら、場を選んだり、遊具や用具を置いたりして遊ぶ。 片付け ・自分が遊んだ場の安全を意識して整える。 ・友達と協力や分担をして、生活の場を整える。
11:20	・トイレに行く。 ○学級活動「目玉焼き鬼」をする。 ・教職員からルール説明を聞く。(保育室) ・教職員の話聞き、目玉焼きのような複雑なラインを意識して捕まらない作戦を考える。 ・カラー帽子をかぶって園庭に出る。 ・最初は教職員が鬼になり、幼児は捕まらないように白身の中を逃げる。 ・慣れてきたところで幼児が鬼になり、鬼を増やして遊ぶ。 ・鬼の動きや捕まえようとする手を意識したり、目玉焼きのラインから出ないように気を付けたりしながら、素早く走る・止まる・ジャンプする・すり抜ける等の動きをする。	《ルール》 ・目玉焼きの黄身の中は鬼、白身の中は逃げる人、線から出ないように捕まえたり逃げたりする。  ・ルールが理解しやすいよう、ボードに図示しながら伝える。 ・幼児の提案を受け止めたり認めたりしながら、ルールが共通になったり、他児のルール理解が進むようにしたりする。 ・友達の動きや園庭のラインを意識できるように声を掛けたり、素早く動いている幼児、自分なりに作戦を考えて動いている幼児などの姿を認めたりする。	・事前に他学級担任と場の調整をし、園庭に鬼遊びに使う線を描いておく。 ・幼児の理解や実際の動きを見ながらルールの確認をし、ルールを難しくしてスリル感を味わいながら機敏に動けるようにしたりする。	集団遊び ・教職員の話（ルール）を正確に聞く。 ・教職員の話聞いて、自分のすることを理解して行動する。 ・周囲の状況や大勢の友達の動きを見て、自分の動きを考える。 ・鬼や友だちの動きを見て、瞬時に判断して動く。 ・新たなルールの提案や指示など、教職員の話に注意して聞き取る。
12:00	○昼食をとる。 ・食事の準備をする。(茶を配る) ・友達や先生と一緒に食事をする。 ・後片付けをする。(机、椅子を片付ける)	・好き嫌いをせず、よく噛んで食べるよう指導する。 ・注意してこぼさずお茶を注ぐよう指導する。 ・後片付けは、周囲を見ながら友だちと協力して行えるよう援助する。	・やかんのお茶の量と温度が、幼児にとって適切であるか必ず把握する。	食 事 ・健康に関心をもつ。 ・安全にお茶を注ぐ。 後片付け ・周囲に気を付けながら友だちと協力して用具を運ぶ。

14:00	○絵本を見る。 「ちいさいうち」 ・気付いたことや面白かったことについて話す。 ○降園の準備をする。 ・交通安全について話を聞く。 (降園)	・出入口や廊下に、歩行の妨げになるものが置かれていないか確認する。 ・落下物、転倒しやすいものがないか点検する。 ・細かい描写の変化に関心を持って話を聞くことができるよう援助する。 ・自分なりの表現で話ができるよう指導する。 ・交差点や道路での横断について、飛び出しを行わないよう指導する。	・机の片付けは教職員が共に行い、危険を避けるようにする。 ・一人一人が落ち着いて絵本を見ることができるよう環境を整える。	・物による通路妨害の危険を知る。 絵本 ・教職員の話を集中して聞く。 ・絵や言葉からイメージして、話の内容を理解する。 降園時の活動 ・交通事故の危険について理解する。
-------	---	---	---	---

4 評価

- (1) 身近な小動物に親しみをもちかかわることができたか。
- (2) 遊びの中で危険な行動に気づき、安全に行動しようとしていたか。
- (3) 体を動かし遊ぶ楽しさを味わい、敏捷に行動することができたか。
- (4) ルールを理解し、周囲の状況に応じて素早く動くことができたか。
- (5) 友達と声を掛け合い、協力したり分担したりして活動に取り組むことができたか。
- (6) 教職員の話を聞き、理解し正しく行動していたか。
- (7) 教職員や友達と話し、自分の思いが相手に伝わるように話すことができたか。
- (8) 周りにある物や人の動きを感じ、安全に行動しようとしていたか。
- (9) 危険を感じたら直ちに近くにいる教職員に知らせる意識をもてたか。

5 その他

日常の安全指導のポイント

- ①体を動かして遊ぶことを通して、危険な場所や事物、状況などがわかったり、危険を回避するにはどうしたらよいか学び取れるようにする。
- ②幼児の個人差、興味関心の方向性を把握し、一人一人に応じた指導を行う。
- ③幼児の行動の中で見られた「ヒヤリとした行動」や「ハッとした出来事」については、時間を置かず指導し、幼児自身の理解を深めるようにする。
- ④安全指導の内容は、幼児が自分のこととして理解を深められるよう、具体的に伝える。
- ⑤生活の様々な場面で、困ったことが起きたとき、危険を感じたときなどには、直ちに教職員に伝えることについて指導を繰り返す。

幼稚園展開例2

地震発生時の危険等の理解を深める指導（5歳児・10月）

1 意 義

5歳児は、園生活や安全指導の積み重ねを通して、自分の置かれた状況の安全・危険について理解できるようになってきている。自分で危険を予測し、避けようとする力がさらに付くよう、視覚教材を活用して具体的に地震の怖さ、避難行動の大切さを学び、考える機会をつくることは有効である。

2 ね ら い

ミニチュアハウスを見て自分がそこにいることをイメージし、保育室内や通園路で地震が起きた時の危険を理解させ、身の守り方を考えさせる。

3 事前準備

- (1) 保育室の50分の1程度のミニチュアハウス（空き箱など保育室にある材料で作った簡単な模型に室内の戸棚などを配置したもの）
※転倒・落下をイメージしやすいよう、保育室のミニチュアハウスを作成する。
- (2) 幼稚園近隣の建物の模型（空き箱などの材料で作った幼稚園の建物を中心に据えた道路や自動販売機や電柱、看板、塀などのミニチュア）

4 展 開

活 動 (C:予想される幼児の反応 T:教職員の言葉掛け)	教職員の援助
◎保育室のミニチュアハウスを見ながら、地震が起きたときの危険な場所や物と、それがどうなるかを幼児が考える活動 T:「地震が起きたら、このお部屋はどうなるかな」 C:「扇風機が落ちてくる」「戸棚が倒れる」「絵本の棚も倒れる」「時計やテレビも」「(重ねて片付けている)イスが崩れる」等、知っていることを言う。 C:教職員がミニチュアを動かす様子に興味をもって見る。 T:「大きなピアノも、大きな地震のときは動いたり倒れたりします」と動かして見せる。 T:「では、どうすればいいですか?」 C:「机の下に入る」「机の脚を持つ」 T:「そう。机が出ているときは、この子(人形)みたいに、机の下に入って、しっかり脚を持ちましょう」と頭を抱える姿勢の人形を置く。 「机が出ていなかったり、机の下が満員だったときは、みんなはどうしていますか?」 C:「上見て、何もいないところでダンゴ虫(頭を抱える姿勢)になる」「イスの前はダメ」	・ 幼児用の机にミニチュアハウスを設置し、幼児の視線で見やすいように机の前に座らせる。 ・ 更に危険に気付いた幼児が、自分でも作れるよう、材料を用意しておく。 ・ 幼児の発言に合わせてミニチュアを揺らし、室内にある戸棚、ピアノなどが倒れたり落ちたりする様子を見せる。 ・ 幼児が気付かないときは、実際に室内にあるものを指し、「これはどうなるかな」と具体的に考えさせ、幼児の考えを引き出す。

T:「では、今度は、みんなが朝、お母さんと来る道のことを考えましょう。これは、幼稚園の前の◇◇屋さんの所です。お店の横の道もありますね。さあ、幼稚園に来るとき地震が起きたら、どこが危ないか考えてみましょう」 C:「自動販売機が倒れる」「レンガ（塀）が壊れる」「お店の看板も落ちてくる」 T:「そうですね。あと、この電柱も倒れると危ないし、電線も電気が流れているから垂れているときに触ると危ないですね」と、ミニチュアの電柱を倒して見せる。 T:「では、外にいるときは、どうやって自分を守ったらいいでしょうか？」 C:「上を見て、物が落ちてこないところでダンゴ虫になる」「自動販売機の前はだめ」「レンガも崩れるよ」 T:「そう。お部屋の中と同じ。上から落ちてきたり倒れてきたりしないところで、しゃがんでダンゴ虫になって頭を守ってね」 T:「幼稚園の中や外の危ないところ、それから自分の守り方がよく分かりましたね。今日は、お部屋の中や幼稚園前の◇◇屋さんの通りのミニチュアを見て、みんなで考えましたが、自分でもお部屋の中や自分のうちの近くのミニチュアを作って考えるのもいいですね。それから、みんなのおうちの中では、どこが危ないかしら。どうしたらいいかしら。おうちのひととお話してみてください」	・登降園時に通る道路や店のミニチュアを提示し、園内とは異なる地震時の危険や身の守り方を考えやすくする。 ・幼児の気づきや考えたことを、ミニチュアを実際に動かしながら認め、学級全体で危険への気づきを共有できるようにする。 ・電柱や看板など幼児の目線より上にあるものは、幼児は気づきにくいことが予想されるので、ミニチュアを用意しておき、目の前で少し揺らして見せ、幼児の考えを引き出すようにする。 ・自分でも保育室や通園路、自宅の危険と安全を考えていけるように言葉を掛ける。 ・降園時に、園での活動内容を保護者に伝え、家庭内や通園路の危険と安全、身の守り方について、親子で話す機会をつくることを薦める。
--	--

5 評価

- （１）ミニチュアハウスを見て、保育室や通園路で地震が起きた場合の危険を一人一人がイメージし、危険な状態を考えることができたか。
- （２）多様な危険に対応して、どのような避難行動をとったらよいか、考えることができたか。

幼稚園展開例3

園外保育（防災の視点を示した計画案）（4歳児・5月）

1 意義

園外での活動は、幼児に豊かな体験の機会を与えるが、普段の生活とは違う園外で災害に遭遇した場合、予想外の被害を受けることが考えられる。園外保育実施計画に安全指導の観点を明確に示し実施する。

2 ねらい

- （1）集団行動の仕方が分かり守って行動する。
- （2）天候の変化などが生じたとき、教職員の指示に従い、速やかに行動する。
- （3）安全な遊び方が分かり守る。

3 想定

4歳児参加 5月実施 ○○公園 大型バス使用（所要時間 片道40分）

4 事前準備

- （1）実地踏査の実施（参考資料 参照）
 - ・実地踏査には管理責任者が同行し、けが防止や防犯、防災に関して潜在する危険箇所のチェックを行う。天候の変化（雨、雷、竜巻）や災害（地震、火災等）で予想される危険に対応するための避難場所を確認しておく。
 - ・移動中の災害に備えて、バス会社に経路を確認し、その経路途上の避難場所となる学校等の公共の施設の位置も地図で確認しておき、当日は持参する。
- （2）実施計画検討会議の開催
 - ・実地踏査の情報を基に、天候の変化や地震による経路変更や避難行動について検討し、特に避難場所や保護者への連絡方法を共通にしておく。
（引率園長からの一斉メール配信、園長から園の留守番教職員経由の連絡など）
- （3）保護者への連絡
 - ・現地や移動中で災害にあった場合の保護者への連絡方法は、年度当初や園外保育前に保護者へ紙面で知らせ、理解と協力を仰ぐ。
 - ・連絡内容は、現在の状況、幼児の安否、現在位置（避難場所）などを知らせ、園への到着予想時間や、保護者は、どこ（園・自宅）で待機すればよいのか、現地での引き取りが必要なのかなどの情報を正確に伝える。

5 展開

時間	教職員の動き		幼児の活動	災害安全上の配慮点
	全体指揮者	担任及び引率者		
9:00	(登園) ・参加者の人数の 確認・記録	・幼児の様子などを見て、健康状態を把握する。 ・登園時、出欠の確認を行い、園長に報告する。	○担任等に挨拶をする。 ○バスに乗車する。 ○車中より車外を見て楽しむ。	・教職員自身がゆとりをもち持ち物、スケジュール最終確認をする。 ・災害に備え、園から現地までの地図、保存食なども持参する
9:20 10:00	・園出発 (公園到着) ・バス降車時の人数確認 ・幼児、教職員の動きの把握	・降車時、人数の確認をし、報告する。 ・担任はトイレ全体が見える位置に立ち、幼児の動きを把握する。 ・所持品の忘れ物がないか確認する。	○バスから降りる。 ○トイレに行く。	・トイレに園児を行かせる前に必ず教職員がすべてのトイレ内部の安全を確認する。 ・トイレ引率教職員は声を出し、周囲に知らせ行動する。数名の幼児を連れて行く場合は、クラス名と人数を確認する。
	・目的地まで移動の指示 ・本部を設定 ・全体把握 ・天気予報の確認	・楽しく歩けるよう声をかける。 ・一人一人の健康状態を確認する。 ・荷物を一箇所にまとめて置かせ、遊びのスケジュール、安全についての確認をする。 ・複数学級で行動する。 ・思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを全園児が楽しめるよう、補助教材を準備する。興味関心、運動能力の差が生じた場合でも対応できるよう配慮する。 ・3分の2程度の幼児が食事を終えたら、昼食後の行動について説明	○目的地まで2列縦隊で歩く。 ○担任の話を聞き、安全に遊ぶための約束を理解する。 ○教職員が示した範囲内で、走ったり、運動遊具で遊んだりして遊ぶ。 ○弁当を食べる。 ○担任の話を聞き、行動の仕方を知る。	・各担任が列の先頭を歩き、園長は最後尾に着き、全体を把握する。 ・定時に天気予報を携帯電話で確認する。 ・園長はこまめに移動し全体把握する。 ・携帯電話（無線電話）を全教職員が携帯し連絡を取り合う。 ・単独行動を取らないよう、幼児に声を掛け、安全確認をする。 ・園長は園の教職員に、出発の連絡を入れる。特に到着の遅れが予想される場合、迎えの保護者へ連絡（口頭・掲示・メールなど）するよう指示を出す。
11:30	(昼食) ・天候の変化、危険行動等を把握 ・出発の合図	・車内での健康状態を把握する。	○トイレに行く。 ○バスに乗車する。	
13:00 13:50	・バス乗車 ・園到着			

6 評価

- (1) 集合の合図や全体への指示を理解し行動できたか。
- (2) 園外で敏捷に行動することができたか。
- (3) 安全な遊び方を守ることができたか。

7 安全な園外保育実施のポイント

- ①園児の服装、所持品等についての理解を深めるため、全家庭に対して園外保育の意図や意味について丁寧に事前説明を行う。

- ②詳細な行動計画案を早めに作成し、担当教職員で十分検討する。
- ③担当者は、実施直前の天候の変化や状況の変化について調査し最新情報を入手する。
その結果を管理責任者に報告し、最終検討を行う。
- ④引率責任者は、携帯電話等の機能を使い、定期的に気象情報等を確認する。

8 参考資料

＜園外保育実地踏査報告書案＞

遠足実施日	○月○日			
実地踏査日	○月○日	実踏者：○○副園長、○○教諭、○○教諭		
管理事務所	電話		担当者	
	場所確認チェック		施設全体地図	有 無（略図作成）
休園日	あり（○曜日） なし（管理事務所は 曜日休み）			
トイレ	場所のチェック：		清掃状況等：	
	① トイレ	男子用 個	女子用 個	サイズ・形状・ペーパー有無
	② トイレ	男子用 個	女子用 個	サイズ・形状・ペーパー有無
避難場所	災害時の避難経路（広域避難所）：			
	利用施設周辺の川、池、海、崖等の地形：			
	屋根付きの休憩場所：			
近隣の病院	○○総合病院 ○○—○○○○—○○○○			
その他 園内の様子				

幼稚園展開例 4

避難訓練「全園児一斉指導 地震後の引き渡し訓練」

1 意 義

大地震等発生時、幼児の安全を確保し、幼児の命を守るため、家庭や地域と連携した引き渡し避難訓練を行うことが重要である。

2 ね ら い

3 歳児：○緊急時であることが分かり、担任や身近な教職員と避難する。

4 歳児：○教職員の指示を聞き、約束を意識して行動する。

5 歳児：○教職員の指示や状況を理解し、約束を守って敏捷に行動し、自分の身を守ろうとする。

教職員 ○幼児の安全確保・誘導の仕方など自分の役割を各自が判断・理解して動く。

○引き渡しが必要かつ可能な場合は、確実に保護者に引き渡しが行えるようにする。保護者が引き取りに来られない幼児の心身の安全を守れるようにする。

保護者 ○自分の身を守りながらわが子を確実に引き取る方法を理解し、落ち着いて訓練に参加する。

3 想 定

震度 5 弱の地震が 11：00 に発生し、放送機器や電話等の連絡手段が使用できない状況を想定する。近隣火災による二次避難を決定する。3 歳児 30 名は保育室で一斉活動中、4 歳児 60 名、5 歳児 60 名は園舎内外で学級ごとの一斉活動をしている。地震発生時間や出火方向を事前に決めて保護者に知らせ、引き取りに来た保護者に幼児を確実に引き渡すようにする。預かり保育利用者など、この時間の訓練に参加できない保護者に対しては、降園時を引き取り訓練と想定して訓練に参加してもらう。

4 展 開

時間	教職員の動き			幼児の動き
	全体指揮者の動き	担任の動き	他の教職員の動き	
11:00	地震発生			
	・副園長が地震音をならす。 ・本部（園長・副園長等） 防災頭巾をかぶりながら職員室から廊下に出て、廊下・園庭に幼児がいないか確認し、いた場合は、安全な場所と姿勢を指示する。	・「避難訓練です。地震です」と近くの幼児に緊急時であることを大声で知らせる。 ・ヘルメット等で自身を守りながら、幼児に落下・転倒・移動・飛散物から身を守る姿勢をとるように指示する。 ・室内では、ドアを開放し、避難経路の確保をする。 ・危険な場所にいる幼児や避難場所を迷っている幼児に指示を出す。 ・幼児に短く的確な指示を出し、身を守る姿勢がとれた後は、安心させるような声を掛ける。	・近くにいる幼児に身を守る姿勢をとるように指示する。	○教職員の声に気が付き、活動を止めて話を聞く。 ○指示に従い、安全な場所で自分の身を守る姿勢をとる。 ○3歳児：担任の指示で机の下に潜り机の脚をつかむ。 ○4歳児：担任や身近にいる教職員の指示を聞き、身を守る姿勢をとる。 ○5歳児：自分で判断し、安全な場所を選んで身を守る姿勢をとる。
11:05	揺れが一旦おさまる（放送機器は使用不可能の想定）			
	・副園長はメガホンを持ち、園内を回る。 「揺れはおさまりましたが、子どもたちは防災頭巾をかぶって頭を守っていなさい」 ・副園長は、各担任へ状況報告の指示をする。 「先生方、幼児の安全確保と人員確認をお願いします」（人数・負傷者・不明者確認） ・園長は担任以外の教職員へ指示を出す。 ①残留園児の確認 ②施設等の被害状況の確認 ・園長はラジオ等で災害情報を収集する。 ・園長は、本部設営を指示する。 ・副園長は各保育室を回り、幼児数を調べ、全員の無事を確認する。施設の被害状況と合わせ、園長に報告する。	・防災頭巾を渡しながらか、けがの有無を確認する。 ・幼児を集め、人数を把握する。 ・防災頭巾がしっかりかぶれているか、上靴を履いているかを確認する。	・園庭や屋上の幼児に、職員室にいる教職員は、職員室や廊下に設置した防災頭巾を渡す。 ・予め担当しているエリアの残留園児の有無と建物や避難経路の被害状況等を確認する。本部に報告する。	・防災頭巾をかぶる。 ・担任や他の教職員の指示を聞く。

11:15	近隣より火災発生 二次避難場所へ避難			
	・園長は教職員から近隣火災の報告を受ける。<u>風向きを確認する。</u> ・園長は正門から〇〇公園への避難を決定し、副園長に園内周知を指示する。 ・副園長はメガホンで園内を回り、教職員に「△△方向から出火・正門から〇〇公園へ避難」を伝える。 ・園長は、担任以外の教職員への指示を出す。 ①3歳児や特別支援児の避難誘導の補佐 ②避難経路の安全確保 ③非常持出の用意（園児名簿、園児引き取りカード、職員住所録） 拡声器、幼稚園の目印となる小旗、非常食の飴、医薬品、ラジオ等 ・園長が先頭になり、〇〇公園へ出発する。最後尾は副園長がつく。	・幼児に火災発生と園外避難を伝え、上靴のまま正門から避難する。 ・室内にいる担任は、出席簿、園児名簿、引き取りカードと、避難リュックを持つ。 ・5歳児担任は、5歳児が3歳児と手をつながせ、二次避難場所への移動を始める。 ・5歳児には、「3歳児が転ばない程度に、でも早く手を引く」ように伝える。 ・担任は自分の学級だけでなく、他学級の幼児や周囲の状況に気を配る。 ・幼児が不安にならないよう、声を掛けながら避難する。	・近隣の△△方向に火災を発見し、本部に報告をする。 ・3歳児や特別支援児の避難誘導の補佐をする。 ・廊下・階段・非常用滑り台の下などの避難経路の安全確保をし、通行を邪魔するものは大まかに片付ける。 ・一人は先発し、避難経路の安全を確認し、先頭の園長に合図を送る。危険な場合は停止の合図を送り、素早く戻って状況を園長に報告する。	・教職員の指示を静かに聞く。 ・防災頭巾やヘルメットをしっかりとぶり、靴をはく。 ・担任や近くにいる教職員の指示を静かに聞き、学級ごとに2列に並んで正門に向う。 ・5歳児2人組→5歳児と3歳児の2人組→4歳児2人組の順に並ぶ。 ・5歳児は3歳児を気にしながらも手を強めに引く。
11:45	二次避難場所へ到着			
12:30	・園長は、担任へ人員の確認と報告を指示する。 人数確認、負傷者確認、不明者確認	・学級ごとに2列に並び、人員を確認して本部に報告する。		保護者への引き渡しを決定（本部長＝園長） ・園長は、幼児を引き取りに来る保護者がいると判断する。幼児引き渡しを決定し、教職員に伝える。 ・園長は担任以外の教職員に指示を出す。 ①3歳児や特別支援児の避難誘導の補佐 ②保護者誘導 ③周囲の情報収集

保護者への引き渡し開始			
・園長は、全体が把握できる位置に立ち、引き取りの様子を掌握する。 ・引き渡し状況の報告を受ける。 ・迎えない幼児を把握し、移動を指示する。 ・園長は、避難訓練の終了を告げ、預かり保育児など保護者の迎えない幼児を把握し、担任たちとともに園に戻る指示を出す。	・保護者が「引き取りカード」を持参した場合は記述を確認する。幼児名を呼び、一人ずつ確実に保護者へ引き渡す。カードがない保護者には、名簿に記名を促す。 ・保護者には、大きな声ではっきり幼児名を言うように指示する。 ・保護者に引き渡した時刻を記録する。 ・保護者への引き渡しが終了した担任は、本部に終了時間とともに報告する。 ・担任は、保護者の迎えない幼児が不安にならないよう配慮しながら、預かり保育の教職員と共に保育室内に幼児を誘導する。	・公園の門に立つ教職員は、保護者を誘導しながら、保護者名札を確認する。名札のない人は名前を確認し、不審者が紛れこまないようにする。	・担任から名前が呼ばれるまで、座って待つ。 ・名前を呼ばれたら保護者の所に行き、担任に挨拶をする。 ・自宅まで防災頭巾やヘルメットをかぶり、保護者と手をつないで帰る。 ・保護者の迎えない幼児は、担任と共に幼稚園に戻る。

5 評価

3歳児：○緊急時であることが分かり、怖がらずに担任や身近な教職員と避難できたか。

4歳児：○教職員の指示を聞き、内容が分かり、約束を意識して行動できたか。

5歳児：○教職員の指示や状況を理解し、約束を守って敏捷に行動し、自分の身を守ろうとすることができたか。

教職員 ○幼児の安全確保・誘導の仕方など自分の役割を各自が判断・理解して動くことができたか。

○幼児を保護者に確実に引き渡し、保護者が引き取りに来られない幼児の心身の安全を図ることができたか。

保護者 ○自分の身を守りながらわが子を確実に引き取る方法を理解し、落ち着いて訓練に参加できたか。

6 その他

・避難訓練のポイント

①日常から、様々な場面での非常事態発生を想定し、教職員が連携行動を取れるよう繰り返し打ち合わせておく。

②幼児用防災頭巾やヘルメット、教職員ヘルメット、非常持ち出し用品、拡声器等、災

害発生時に必要となる用品の所在を、全教職員が瞬時に分かるよう、場所を特定し表記しておく。

- ③担任以外の教職員と幼児が触れ合う機会を意図し、日ごろから園内の多様な人と関わり、災害時にはどの教職員の指示も聞ける信頼関係を築けるような体制をつくっておく。
- ④園外の避難場所は、火災など園内に留まれない場合に全園児を連れて行ける場所なのか、教職員で実地踏査をする。地域住民の避難も予想しながら、場所、避難経路の確認をし、災害の種類や発生場所によって選択できるよう複数設定して、年度当初に保護者に知らせておく。

・引き渡し訓練のポイント

- ①年度当初の保護者会等において印刷物及び口頭で、親子の身を守るための共通理解や安全策を具体的に伝える。
 - ・保護者は状況を冷静に判断し、自身の身の安全をまず確保する。その上で、親子ともに身を守ることができると判断した場合に、幼稚園に引き取りに来る。（状況により保護者は早期に迎えに来られない場合も、幼稚園は想定しておく）
 - ・二次避難場所は複数選定し、災害の状況に応じて場所を判断する。緊急の場合は保護者に避難先を連絡できない場合もある。
 - ・保護者が幼稚園に引き取りにきても、災害の状況によっては親子の身の安全のために引き渡しはせず、一緒に避難してもらうこともある。
 - ・保護者の迎えは、原則、徒歩とする。
 - ・歩きやすい靴（サンダルは不可）や、肌を守る長袖で迎えに来る。
 - ・ベビーカーや抱っこ等はせず、保護者の両手が使える状態にする。
- ②保護者への連絡方法は、固定電話の他に、携帯電話やパソコンの一斉情報配信など多様に備える。連絡訓練も行い、園も保護者もいざという時に落ち着いて使えるようにしておく。
- ③「引き取りカード」は年度当初に数枚渡し、緊急時に幼児を引き取る者は常時携帯してもらう。
- ④「引き取りカード」が使用できない状況のときは、幼児の引き渡し状況を物的に残せるものを工夫する
- ⑤年度当初、保護者に「引き取り者確認票」の提出を求め、保護者の引き取り状況を把握したり、通常の送迎者ではない人が引き取る場合に確実に幼児を引き渡せるようにしたりする。
- ⑥管理職は、地域防災委員会等に積極的に参加し、地域の防災訓練時に、幼稚園近辺道路の混乱状況を想定し幼児の安全確保のための支援体制を具体的に検討してもらえよう働き掛ける。

参考資料 <幼児引き取りカード>

< 幼児引き取りカード >

引き取り票		〇〇幼稚園
組	幼児名	
保護者名		

担任記入欄		

参考資料 <緊急時引き取り方についてのお知らせ>

平成〇〇年〇月〇日

保護者の皆様

〇〇幼稚園長〇〇〇〇

緊急時の幼児引き取りについて

災害発生時及び緊急時に、幼児を安全・確実に保護者の方にお渡しするため、下記のようにさせていただきます。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

1 「幼児引き取りカード」について

- ・「幼児引き取りカード」は、年度当初に5枚ずつお渡しします。必要事項を記入して一枚は通常送り迎えている方が常時携帯し、他はご家庭で保管しておいてください。代理人となる父、祖父母などの方にあらかじめ一枚渡しておくのもよいでしょう。
- ・引き取り票はクラスカラーになっています。

2 緊急時の引き取りについて ※緊急時は以下のような手順でお子さんをお渡しします。

- ☆ 「〇〇組の 〇〇の母（父・祖母など）です。」と、学級名・お子さんの名前を教職員に告げ、「幼児引き取りカード」を渡し確認を受けて、お子さんを引き取ってください。
- ☆ 本園や小・中学校に兄弟がいる方は、弟妹の疲労や安全を考え、大きいお子さんから引き取ってください。
- ☆ 保護者の方のお迎えを原則とします。やむを得ず他の方に依頼する場合は、依頼する方は必ず「幼児引き取りカード」または身元を確認できる物を持参してください。

3 引き取り時のお願い

- ・必ず徒歩で迎えに来てください。
- ・ハイヒールやサンダルなどの履物は危険です。歩きやすい靴で来てください。
- ・小さいお子さんは背負うなどして保護者の方は両手が使え、安全に素早く行動できるようにしましょう。ベビーカーや抱っこは危険です。

※ 大地震の場合は、電話や一斉メールも通じなくなります。緊急時には園からの連絡がなくても、保護者の方の判断でお迎えに来てください。幼稚園は保護者の方のお迎えまで、お子さんをお預かりしています。

〈緊急時引き取り者確認票〉

〇〇幼稚園 緊急時引き取り者確認票

平成 年 月 日

Ⅰ 引き取り者

記入

(年少児・年中児・年長児)		組	徒歩通園時間 分		
幼児名			避難所		
引き取り者氏名	続柄	住 所		電話番号	帰宅先 備考
①					
②					
③					
④					
⑤					

Ⅱ 兄弟関係（中学生以下）

お名前	続柄	学 校 名	電話番号	学年・組	備 考
.....	..				...

参考資料 <緊急時引き取り者確認票依頼のお知らせ>

平成〇〇年〇月〇日

保護者の皆様

〇〇幼稚園園長〇〇〇〇

緊急時引き取り者確認票について

日頃より本園の教育活動にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

本園では緊急時の対応として、園児を安全かつ確実に保護者の方にお渡しするための必要事項を幼稚園にお知らせいただきたいと思います。これは、保護者の方が非常事態発生後、どのくらいの時間で幼児を引き取りに来られるのかを知り、次の避難行動の判断に生かすため、そして、万一、幼稚園外へ避難する場合にお迎えに来られない幼児がどのくらい予想されるかを把握し、二次避難体制を整えるためです。幼児の命を守る重要な資料となります。別紙に正確にご記入・押印の上、〇月〇〇日（〇）までに担任へお渡しください。

【記入の説明】

- ・『徒歩通園時間』は、毎日の送り迎えに徒歩でかかる時間をご記入ください。
- ・『避難所』は、災害時、自宅が倒壊などにより住むことができない場合に避難する地域指定の避難所（小・中学校等）を記入してください。

Ⅰ 引き取り者

- ・『引き取り者氏名』は⑤まで全員記入する必要はありません。交通機関が止まった場合にお迎えに来られる方をご記入ください。また、枠が足りない方は用紙をお渡ししますのでお知らせください。
- ・『引き取り者氏名』は、通常の送り迎えの方以外が引き取りにいらした時、確認に使用します。住所、電話を正確にお書きください。『続柄』には、お子さんとの関係（母・父・祖母・叔父など）を記入してください。ご近所の方やお友達などの場合、先方に確認の上、ご記入ください。
- ・『住所』（自宅・勤務先他）には、お子さんが幼稚園にいる時間にその引き取り者の方が出発する場所です。住所・電話番号を書いてください。交通機関が止まった場合、その方はお迎えに来られるのか、どのくらい時間がかかるのかの判断に必要です。
- ・『帰宅先』は、その引き取り者の方が園児を連れて帰る場所をご記入ください。特に祖父母宅など園児の自宅でない場合は、所在確認や災害後の連絡などの必要ですので、正しくお書きください。

Ⅱ 兄弟関係

- ・引き取り時の状況を事前に把握しておくため、また学校同士で連絡をとることを想定して、中学生以下のお子さんの在籍先、学年・学級をご記入ください。保育園、小学校、中学校の場合は、必ず校（園）名をお書きください。他の場合は、さしつかえない程度にご記入ください。

【個人情報について】

- *別紙は、提出していただいた後、ご家庭の保管用として幼稚園でコピーして一部をお渡します。
- *ご家庭よりお預かりした個人情報は、緊急時のみ使用し、教職員以外は閲覧しません。

【引き取りに関して】

- ・震度5弱以上の場合、園からの連絡がなくても園児の引き取りをお願い致します。また、震度5弱以下でも、保護者の方の判断でお迎えに来ていただいて構いません。
- ・保護者など記入された引き取り者の方が引き取りにみえるまで、園児をお預かりします。
- ・幼稚園は、保護者の了解を得ずに別紙記入の引き取り者以外の方に園児を引き渡すことはしません。
- ・幼稚園以外へ避難する場合、正門の掲示板等に行き先を掲示していきます。

参考資料 <引き渡し訓練のお知らせ>

平成〇〇年〇月〇日

保護者の皆様

〇〇幼稚園長〇〇〇〇

防災訓練（幼児引き渡し訓練）について

日頃より本園の教育活動にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

〇〇市では、震度5弱以上の地震が発生した場合は、保護者がお子さんを引き取りに来られるまでは、幼児・児童・生徒を学校・園で保護しておくことを原則としました。それにもない、これまで9月1日の「防災の日」にあわせ、各学校・園ごとに実施してきた避難訓練を、今年度は、公立幼稚園・小学校・中学校一斉に「引き渡し訓練」を実施いたします。実際の時、あわてず、安全・確実にお子さんを引き取り、帰宅するための訓練です。下記の事項をよくお読みの上、ご参加ください。

記

1 実施日 平成〇〇年9月〇日（〇）

2 想定 震度5弱（〇〇市）の強い地震が11時00分に発生

3 方法

- (1) 一斉メール（第一報） 11時の地震発生後、全園児の安全確認ができたことを連絡します。
- (2) 一斉メール（第二報） 震度5弱。引き渡しを決定したことを連絡します。第二報を受けて、お迎えに来てください。
- (3) 迎えに来る際は、必ず徒歩で、歩きやすい靴を履いて来てください。ハイヒールやサンダルなどは危険です。
- (4) 小さいお子さんは背負うなどして保護者の方は両手が使え、安全に素早く行動できるようにしましょう。ベビーカーや抱っこは危険です。
- (5) 園庭でお子さんをお渡しします。訓練ですので正門、裏門ともに開けます。ご自宅・職場から近い門を使用してください。
- (6) 園児を引き取る際は必ず、「〇〇組〇〇の母（父、祖母など）です」と教職員につげ、「引き取りカード」を渡し、確認を受けてからお子さんをお引き取りください。
- (7) 〇〇市では、公立学校・幼稚園に兄弟姉妹のいる方は、年齢の小さいお子さんから引き渡すことを原則としています。小さいお子さんが引き取り時の混雑の中で疲れたり迷子になったりしないよう、気を付けてください。
- (8) 家に着くまでが避難訓練です。手をつなぎ、寄り道せずに速やかにお帰りください。
- (9) 途中で事故などあった場合は、必ず園に連絡してください。
- (10) 防災頭巾は、翌日持ってきてください。
- (11) 預かり保育利用の方は、お迎えの時に引き渡し訓練を行います。「引き取りカード」を預かり保育担当職員に渡し、お子さんを引き取ってください。
- (12) 雨天の場合は、幼稚園内各保育室での引き取りといたします。玄関・園庭側どちらから入っても構いません。

幼稚園展開例5

避難訓練「全園児一斉指導 地震発生から津波警報発表時の避難訓練」

1 意義

大地震が発生した場合、その地域に起こり得る災害は多様であることから、その地域や園の実態にあった二次避難訓練を計画・実施する必要がある。特に津波に関しては、幼児の命を守るため、状況判断・避難場所の決定・避難誘導に迅速さが求められる。津波を想定した避難訓練を通して、園の課題を明確にし、避難訓練を積み重ねることが重要である。

2 ねらい

- 幼 児 （１）津波警報が発表されたときの園外への避難の仕方が分かり、教職員の指示に従い、素早く行動できるようにする。
- （２）命を守るために自分ができることやしなければならないことは何かを考え行動できるようにする。
- 教職員 （１）津波警報発表時の幼児の安全確保・誘導の仕方など自分の役割を各自が判断・理解して動く。
- （２）幼児に不安を与えないように指示を出し、落ち着いて行動する。
- （３）地域と協力し、情報の確認・伝達、報告を確実に行う。

3 想定

地震（震度６弱の地震）が発生。地震発生後、津波警報が発表される。

３歳児２０名は保育室で一斉活動中、４歳児６０名、５歳児６０名は園舎内外で学級ごとの一斉活動をしている。

4 事前準備

- （１）事前に地域住民とともに全教職員で地域調査を行い、地域としての避難場所や複数の避難経路を共通理解し、いざという時に地域で声を掛け合い、安全で時間短縮となる経路を選択できるようにする。
- （２）年度当初、津波警報発表時の避難場所について保護者会等で詳細に説明し、理解と協力を求める。
- （３）同じ避難場所に避難する他の園・校と連絡を取り、避難施設内で混乱のないよう、施設内の避難経路や避難場所を確認しておく。

5 展 開

時間	教職員の動き			幼児の活動
	全体指揮者	担 任	その他の教職員	
9:45	地 震 発 生			
	園長は、各保育室の状況と人員確認の報告を受ける。	- 人数とけがの有無を確認し、本部に報告する。 - 余震に備え、防災頭巾を渡し、靴の確認をする。	残留園児、建物被害を確認し、園長に報告する。	揺れがおさまり、防災頭巾をかぶり、靴をはく。
9:50	津波警報発表（地域防災無線・緊急放送） 二次避難場所へ避難決定			
	- 地域防災無線とラジオの緊急放送で、『津波警報発表』を知る。 - 園長が二次避難所避難を決定し、副園長に園内周知を指示する。 - 副園長がメガホンで指示して回る。 「津波警報発表。津波警報発表。大至急、中央公民館3階に避難。」 - 担任以外の教職員への指示 ①3歳児や特別支援児の避難誘導の補佐 ②避難経路の安全確保 - 非常持出（園児名簿、園児引き取りカード、職員住所録） 拡声器、幼稚園の目印となる小旗、ラジオ等	- 幼児に中央公民館避難を伝え、速やかに外に出る。 - 保育室にいる担任は、出席簿、園児名簿、引き取りカードを持つ。	3歳児や特別支援児の避難誘導の補佐をする。 - 廊下・階段などの避難経路の安全確保をし、通行を妨げるものは大まかに片付ける。	担任や近くにいる教職員の指示を静かに聞き、急いで外に向う。
9:55	二次避難場所へ避難開始			
	- 先頭は園長、最後尾は副園長がつく。 - 人員確認の報告を受ける。	- 担任は人数を確認しながら、5歳児に3歳児の手をつながせ、二次避難場所への移動を始める。 5歳児には、「3歳児が転ばない程度に、でも早く歩けるよう手を引く」ように指導する。 - 担任は自分の学級だけでなく、他学級の幼児や周囲の状況に気を配る。 - 複数学級で列を作り、先導する教職員と最後尾から引率する教職員に役割	- 残留園児の確認をし、本部に報告する。 3歳児の避難の補助をする。 1名は先発し、避難経路の安全を確認し、先頭の園長に合図を送る。危険な場合は停止の合図を送り、素早く戻って状況を園	5歳児2人組→5歳児と3歳児の2人組→4歳児2人組の順に並ぶ。 5歳児は3歳児の歩調を気遣いながら、手を強めに引く。早く歩くよう励ます。

10:05		を分けて行動し、幼児が素早く避難できるよう、不安にならないよう、声を掛け続ける。	長に報告する。	
	二次避難場所へ到着			
	・園長が、大急ぎで3階まで駆け上がるよう指示する。 ・3階に到着し、担任へ人員確認と報告を指示する。（人数確認、負傷者確認、不明者確認） ・園長の話「全員無事にここに避難することができました」 ・園に戻る。		・3歳児の避難誘導の援助をする。	・5歳児は3歳児の手を離す。5歳児と4歳児は、それぞれ速やかに階段を3階まで駆け上がる。 ・3歳児は、5歳児と4歳児の後から、担任やその他の教職員と手をつないだりおぶわれたりしながら3階に上がる。

6 評価

幼児（1）津波警報が発表されたときの園外への避難の仕方が分かり、教職員の指示に従い、素早く行動できたか。

（2）幼児なりに津波の怖さを知り、命を守るために自分ができることやしなければならぬことは何かを考え真剣に行動することができたか。

教職員（1）津波警報発表時の状態を理解し、幼児に不安を与えないよう落ち着いて幼児に指示し、素早く幼児を誘導することができたか。

（2）地域関係者や教職員間で情報は正確・迅速に伝えることができたか。幼児の命を守るため、安全確保・誘導など自分の役割を理解し、瞬時に判断し、連携して動くことができたか。

7 その他

（1）津波想定避難訓練のポイント

- ①日常から様々な活動場面での津波警報発表を想定し、教職員が連携して素早い行動が取れるよう、地域とともに繰り返し打ち合わせ・実践・反省を行う。
- ②二次避難場所への避難時間と幼児の行動を詳細に記録し、いざという場合の判断の拠り所とするとともに、時間短縮を目指して訓練を積み重ねる。
- ③避難訓練の積み重ねだけでなく、日頃の遊びや学級活動の中で運動能力を高め、素早い動きができるようにしておく。

- ④地震発生により保護者が幼児を引き取りに来た場合、津波の可能性がある場合は幼児を引き渡さず、保護者も共に二次避難場所へ避難するようにする。そのことは、年度当初に保護者と共通理解しておく。

(2) 資料

- ・「津波から逃げる」気象庁津波防災啓発ビデオ（H24. 4） 気象庁ホームページ
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html
- ・「津波に備える」気象庁津波防災啓発ビデオ（H25. 2） 気象庁ホームページ
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd_sonaeru/index.html
- ・「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」文部科学省（H24. 3）

幼稚園展開例6

避難訓練「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動における避難訓練（地震想定）」

【その1】降園後の避難訓練（園庭開放と預かり保育実施時間帯）

1 意 義

教育課程に係る教育時間の終了後、多様な形態で園児を預かっている。預かり保育や園庭開放など、園独自で実施している運営の時間帯を想定し、避難訓練を実施する。

2 ね ら い

3歳児：○放送を聞き、緊急時であることが分かり、指導員の指示に従う。

4歳児：○緊急放送を聞き、遊びを止めて集中して放送を聞く。

○指導員の指示に従い、敏捷に行動する。

○避難の約束を意識して行動しようとする。

5歳児：○緊急放送を聞き、遊びを止め指導員の指示に従って素早く行動する。

○避難の約束を意識し、最後まで守って行動する。

○命を守るために自分ができることやしなければならぬことは何かを考え行動する。

教職員：○周囲の状況を咄嗟に捉え、室内外で安全な場所を確保し幼児を避難させる。

○正確に幼児数を確認する方法を理解し実践する。

○教職員間の連絡・報告を確実に行之、幼児の安全確保にあたる。

保護者：○園内では幼児を守る協力者としての意識を持ち、緊急放送を積極的に聞く。

○速やかにわが子を探し、ガラス、転倒の恐れのある遊具から離れ、指示された場所に集まる。

3 想 定

保育終了後、希望する親子が自由に園庭で遊ぶことのできる園庭開放と、希望する家庭の園児を預かる預かり保育を同時に実施している時間帯の地震発生を想定する。

震度5強の地震発生 預かり保育（3歳児3名、4歳児5名、5歳児7名）が利用希望している状況。園庭には、園庭開放利用の30組の親子がいる。

4 展 開

時間	教職員の動き			預かり保育の 幼児の活動	園庭開放利用の 保護者の動き
	全体指揮者の動き	担当教職員の動き	他の教職員の動き		
14:00	(教育課程終了後の運営に切り替える) ・担任から、預かり保育担当教職員へ引き渡した報告を受ける。	・担当教職員は名簿(日誌)で預かる幼児数と名前を確認し、担任から幼児を引き取る。	・それぞれの職務を遂行する	・預かり保育の保育室に集まる。	・園庭開放を利用している保護者は、園庭でわが子の行動を監督しながら安全に遊ばせる。
14:30	○緊急放送 ◎「避難訓練です。地震です、地震です。今、地震が発生しました。預かり保育(〇〇組)の子どもは、〇〇先生の話聞いて自分の身を守りなさい」 ◎「園庭の親子は、すぐ園庭の中央に集まって座り、頭を守りなさい」 ◎「揺れがおさまりました。預かり保育の先生、預かり幼児の人員把握をしてください」 ◎副園長が預かり保育室に行き、報告を受ける。 ◎園長は、残留園児や園舎の被害状況の報告を受ける。 ◎「先生方に連絡します。余震に備え、園児を園庭中央に避難させなさい。」 ◎人数確認の報告を受ける。 ○園長の話(幼児と、園庭開放の保護者に向けて) ○避難訓練終了	・身を守る姿勢がとれるよう指示する。 ・預かり保育児名簿を携帯し、集った預かり保育児に防災頭巾を渡しながら人数とけがの有無を確認し、駆け付けた副園長に報告する。 ・不在者があった場合、周囲の教職員に協力を求める。 ・再度、人数を数え、預かり保育児に園庭開放利用の幼児が混在していないか確認する。 ・本部に人数とけが人の有無の報告をする。	・幼児の指導にかかわっていない教職員はすべて、幼児の安全確保のための援助者としての行動に切り替える。 ・残留園児の確認を行うため、教職員同士、声掛けをしながら、園舎内外をチェックする。 ・主事は、担当部分の建物の被害状況を確認し、報告する。 ・残留園児確認の報告をする。	○緊急放送を聞き、預かり保育担当教職員の近くに集り、身を守る姿勢をとる。 ○年長児は年少児に声を掛け、一緒に行動する。 ○日常の避難訓練を思い起こし、約束を守り行動する。 ○園長(副園長)の話聞き、地震発生時の行動の仕方を理解する。	・放送を聞き、わが子の遊びを止めさせ、側に引き寄せる。 ・わが子が不在の場合は、探し出し、安全を確保する。 ・園児・弟妹を連れて、教職員のいる園庭中央に移動する。 ・教職員から渡された防災頭巾を、弟妹とともにかぶる。

5 評 価

(1) 3歳児は、緊急時であることがわかり、指導員の指示に従うことができたか。

- (2) 4・5歳児は、緊急放送を聞き分け、速やかに遊びを止め積極的に避難行動がとれたか。
- (3) 教職員一人一人が、今いる人数で幼児の安全対策をとるために、効果的な連携行動のとり方について主体的に考え、行動することができたか。
- (4) 預かり保育担当者が、緊急時の自分の役割や行動の仕方を十分理解したか。

6 その他

・園庭開放、預かり保育時間帯の避難訓練のポイント

- ①災害発生時緊急対応マニュアルを、新年度の教職員構成が決定された時点で速やかに訂正し全教職員で確認する。
- ②短期雇用教職員が、見て分かるマニュアル表を創意工夫して作成する。
- ③すべての時間帯における幼児引き取り状況確認表が、教職員に分かるよう工夫する。

【その2】入園式前の避難訓練（春休み中の預かり保育の時間帯）

1 意義

就学前幼児施設の多様化により、幼保一体化施設や幼稚園の預かり保育等を実施している園では、入園式や始業式以前に園児が園生活を開始している。教職員と信頼関係もまだできていないことを想定し、また園内に教職員も少ない時期の避難訓練を行うことは重要である。春休みの進級児が多い時期に実施し、進級児が自分の身の守り方が分かり行動できれば、新入園児への対応に教職員の手を回すことができる。

2 ねらい

進級児 (1) 緊急放送の合図を聞き、遊びを止めて指示を聞く。
 (2) 地震発生時の預かり保育室の危険な場所や、身を守る方法を確認する。
 (3) 預かり保育担当者の指示を聞いて行動する。

新入園児 (1) 緊急放送の合図を知る。

- (2) 進級児の姿を見て、自分の身を守る方法を知る。
- (3) 預かり保育担当者の指示を聞いて行動する。

預かり担当職員 ○預かり保育実施時の避難の仕方を理解し、行動する。

その他の教職員 ○預かり保育実施時のそれぞれの役割を確認し、行動する。

3 想定

地震（震度4の地震）が発生し、預かり保育室内で避難行動をとる。

進級児5名（4歳児1名、5歳児4名）、新入児3名が、預かり保育室で自由に活動している。

4 展 開

時間	教職員の動き			預かり保育の幼児の活動
	全体指揮者の動き	担当教職員の動き	他の教職員の動き	
12:40	(弁当終了後) ○進級児担任が事前指導をする。	・進級児担任の指導内容や指導の仕方を、幼児の後ろから見る。	・進級児担任が事前指導をする。 ・事前指導が済んだら、他の教職員が職員室に連絡を入れ、避難訓練を開始する。	○事前指導を受ける。 ・災害発生時には、合図があること ・放送や合図があったら、遊びは止めて話を聞くこと ・地震が起きたら、頭を守ること
12:50	○緊急放送（副園長） 「避難訓練です。避難訓練です。（地震音）地震です。地震です。子どもたちは頭を守りなさい。先生方は、幼児の安全確保をなささい」	・幼児に放送を聞くように指示する。 ・その日のチーフの預かり保育職員は、全員が入れるように出しておいた机の下に入るよう、幼児に指示する。 ・教職員自身もヘルメット等で身を守る。 ・その日のサブの預かり保育職員は、避難経路確保のため、保育室のドアを開ける。 ・リーダーは、名簿（出席簿兼日誌）、非常用持ち出し袋を持ち、幼児が上靴を履いているか確認し、自分の前に集める。	・放送や預かり保育担当職員の指示を聞くように声を掛ける。 ・新入園児の不安を受け止め、できるだけ抱き寄せて安心させる。 ・机の脚をしっかりと持つように指示する。	○緊急放送に気付き、活動を止めて放送を聞く。 ○指示に従い、避難行動をとる。 ・机の下に潜り机の脚をつかむ。
13:05	・緊急放送（副園長） 「先生方に連絡します。人員確認の報告をお願いします」 ・緊急放送（副園長） 「揺れはおさまりました。子どもたちは預かり保育の先生の話をお聞きしましょう」	・人員を確認し、室内電話で職員室に報告する。 ・次の事後指導をする。 預かり保育担当職員の話 預かり保育室で地震があった時の安全な場所・危険な場所の確認 ・防災頭巾をかぶらせる。	・幼児の後ろに座り、預かり担当職員の話が聞けるように促す。 ・新入園児には教職員が手を貸し、防災頭巾のかぶり方が分かるようにする。	○預かり担当職員から事後指導を受ける。 ・預かり保育室に机が出ていない時にはどうするか、進級児が答える ・進級児が防災頭巾をかぶってみせる。新入園児は、教職員の手を借りながらかぶる。

5 評 価

進級児（１）緊急放送の合図を聞き、遊びを止めて指示を聞くことができたか。

（２）地震発生時の預かり保育室の危険な場所や自分の身を守る方法が分かり、行動できたか。

（３）預かり保育担当者の指示を聞いて行動できたか。

新入園児（１）緊急放送の合図が分かったか。

(2) 進級児の姿を見て、自分の身を守る姿勢がとれたか。

(3) 預かり保育担当者の話を聞き、行動することができたか。

預かり担当職員 ○進級児担任の様子を見て、緊急時の避難の仕方が分かり、指示を出せたか。

その他の教職員 ○預かり保育実施時の自分の役割を理解し、行動できたか。

6 その他

・避難訓練のポイント

- ①避難訓練担当者が預かり保育担当職員と事前に詳しく打ち合わせをしてから実施する。
- ②4月当初は、新入園児が園生活に慣れていくため、徐々に保育時間を延ばしている時期なので、なるべく新入園児が少ない日・時間帯を選び、進級児がリードすることで新入園児が不安にならないようにする。
- ③地震の揺れの時間（地震音）を短くしたり、全員が机の下に入る体験ができるように、全員が入るだけの机の数を用意したりし、幼児が不安にならず落ち着いて取り組めるようにする。
- ④進級児が今まで通りに安心して訓練に取り組めるよう、また保育に携わっているが避難訓練の指導に不慣れな預かり保育担当職員が学ぶ場となるよう、事前指導は進級児の担任が担当をし、進級児も預かり保育担当職員も指導内容や指導方法が確認できるようにする。
- ⑤事後指導は預かり保育担当職員が幼児の前に立ち、預かり保育の時間は誰の指示に従うことが大切かを分かるようにする。

小学校 防災教育年間計画 (例)

◆ 5・6学年の目標

- ・地域の災害の特性や防災体制について理解できるようになる。
- ・災害により引き起こされる危険を予測し、災害時には、自ら危険を回避する行動ができるようになる。
- ・災害時には、家族や友達、周囲の人々の安全にも配慮し、他の人の役に立つ行動ができるようになる。

◆ 主な指導内容

- ・地域に起こりやすい災害（ア）災害発生時の適切な行動（イ）災害に備えて自分たちにできること（ウ）

1学期	2学期	3学期
◇快適な衣服と住まい（家庭科56） ◇「わたしにできること」社会的役割の自覚と責任（道徳6）【展開例⑤】 ◇「わたしたちの地域の自然災害」（総合）【展開例⑦】 ◇「避難訓練（地震想定）」（学校行事）【展開例⑯】	◇天気の変化（理科5） ◇「洪水の危険について知ろう」流水のはたらき（理科5）【展開例②】 ◇「わたしたちのくらしと火山」土地のつくりと変化（総合）【展開例⑧】 ◇「町の中でぐらっときたら」（学級活動）【展開例⑭】 ◇「避難訓練（津波想定）」（学校行事）【展開例⑰】	◇情報産業と国民生活の関連（社会科5） ◇人々の安全を守るための諸活動（社会科5） ◇「けがを防いで簡単な手当ができるようになろう」（体育5）【展開例④】 ◇我が国の政治の働き（社会科6） ◇「いざという時の備えは」（学級活動）【展開例⑬】 ◇「避難訓練（火災想定）」（学校行事）【展開例⑮】

◆ 3・4学年の目標

- ・災害について基本的な理解ができ、災害を防ぐための工夫について考えることができるようになる。
- ・災害により引き起こされる危険について関心をもち、自ら危険を回避する方法を考えられるようになる。
- ・災害時には、家族や友達、周囲の人々と協力して危険を回避できるようになる。

◆ 主な指導内容

- ・日常生活の安全と災害時の備え（ア）災害発生時の適切な行動（イ）思いやり・公德心（ウ）

1学期	2学期	3学期
◇「安全な暮らしとまちづくり」地域の人々の安全を守るための諸活動（社会科4）【展開例①】 ◇「どうする？大雨だ、強風だ、かみなりだ」（学級活動）【展開例⑫】 ◇「避難訓練（地震想定）」（学校行事）【展開例⑯】	◇「休み時間に大地震がおきたら」（学級活動）【展開例⑪】 ◇「避難訓練（津波想定）」（学校行事）【展開例⑰】	◇「オリジナル防災マップを作ろう」（総合）【展開例⑥】 ◇「地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例」（社会科） ◇「避難訓練（火災想定）」（学校行事）【展開例⑮】

◆1・2学年の目標

- ・災害に関心をもつことができるようにし、災害時の安全な行動について考えることができるようになる。
- ・災害により引き起こされる危険を感じ、大人の指示に従うなどして適切な行動がとれるようになる。
- ・災害時には、自分で危険を回避し、大人と連絡ができるようになる。

◆主な指導内容

- ・災害時の行動ルール（ア） 災害時の適切な行動（イ） まちの安全を守るしくみ（ウ）

1学期	2学期	3学期
◇「火事になったら」（学級活動）【展開例⑨】 ◇「もっとまちをしりたいね」自分と人や社会のかかわり（生活科2）【展開例③】 ◇「避難訓練（地震想定）」（学校行事）【展開例⑯】	◇「地しんがおこったらどうするの」（学級活動）【展開例⑩】 ◇「じぶんでできることをしよう」自分と人や社会のかかわり（生活科1） ◇「いってみようつかってみよう」自分と人や社会のかかわり（生活科2） ◇「避難訓練（津波想定）」（学校行事）【展開例⑰】	◇「もっとなかよしまちたんけん」自分と人や社会とのかかわり（生活科2） ◇「避難訓練（火災想定）」（学校行事）【展開例⑮】

小学校展開例 1

安全な暮らしとまちづくり

1 教科等名

社会科（4年）

【第3学年及び第4学年 内容（4） 地域社会における災害及び事故の防止】

2 ねらい

災害に備え、市役所や消防署と自治会等地域の人々が協力して取り組んでいることを調べ、身近な地域の防災の活動に関心をもち、自分にできることを考えられるようにする。

3 指導計画

21時間 展開例19～21／21)

- (1) 火事から人々をどう守る（消防署の働き） (9時間)
- (2) 自然災害から安全を守る地域の協力活動 (3時間)
- (3) 事故や事件から人々を守る（警察署の働き） (9時間)

4 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援等	資料
1 地域でこれまでに発生した地震や洪水など自然災害の状況や災害について概要をつかむ。 ◇市役所や消防署の人の話を聞きましょう。 ・地域の自然災害の歴史 ・災害時の救助活動、事後対応に大変な努力や苦労があること。 ・災害に備えて、まちの人たちの協力の仕組みや訓練が進められていること。 ◇自分たちの住むまちで行われている、災害に備えた取組について調べて、自分たちにもできることを考えましょう。	○写真や地図など災害の様子が分かる資料を提示する。 ○署員の話から、災害時の様子や日常からの備えの大切さを感じ取らせる。	・写真、地図、ハザードマップ等 ・ゲストティーチャー（消防署員等） ・防災学習施設等の利用も考えられる。
2 わたしたちのまちでは、どのように災害に備えているのか調べる。 ◇地域の人々が自治会、自主防災組織などで行っている活動にはどのようなものがありますか。 ・日常の備えについての呼びかけ。 ・消防署や消防団等と協力した防災訓練。 ・地域の防災倉庫の管理や整備。	○防災訓練の案内や写真、避難所の標識、防災倉庫等の写真を提示する。 ○地域の防災活動に関心が持てるように、自治会などの人より日常からの防災への取組について話を聞かせてもらう。 ○実際に災害を経験した人から、「自助・共助・公助」について具体的な話を聞かせてもらう。	・ゲストティーチャー（防災教育推進委員会、自治会、被災経験者等）

3 分かったことをもとに、自分にできることを話し合う。 ◇自分たちにも何かできることはありませんか。 ・災害時の行動について、あらかじめ家族と話し合い、わが家のルールを決めておこう。 ・防火ポスターや標語、学習をまとめた新聞等を地域に掲示し、まちの人たちに伝えよう。	○安全なまちづくりについての自分たちの考えを新聞などにまとめ、まちの人たちに提案することを通して、地域の一員としての自覚をもって行動しようとする態度を養う。	
--	---	--

5 評価

- (1) 地域の防災活動に関心をもち、自分たちにできる取組を考えることができたか。
- (2) 身近な地域での災害に備えた取組について理解することができたか。

小学校展開例2

洪水の危険について知ろう

1 教科等名

理科（5年）

【第5学年 内容B生命・地球（3）流水の働き】

2 ねらい

雨の降り方によって、流れる水の速さや量が変わり、侵食・運搬・堆積の働きが変わって土地の様子を大きく変化させることや、上流と下流により河原の石の大きさが違うこと、雨の降り方によっては自然災害をもたらす場合があることを理解させる。また、自然の力の大きさを感じ、災害を防ぐ工夫について興味・関心をもち、進んで調べることができるようにする。

3 指導計画

（11時間 展開例10～11／11）

（1）土山に水を流すモデル実験から水のはたらきを調べまとめる。（5時間）

（2）川の上流・下流の情報を集め、全体の様子や川原の石の特徴を調べる。

（3時間）

（3）増水した川を流れる水のはたらきを調べ、災害を防ぐ工夫について理解する。（3時間）

4 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援等	資料
1 過去に発生した洪水の様子について理解する。 ◇調べてきたことをもとに洪水について知っていることを発表しましょう。 2 洪水の発生原因やその影響について考える。 ◇どのようにして洪水が起こるのか資料をもとに考えましょう。	○家族など洪水の被害を体験した人に聞いてきたことを発表させ、身近な地域でも繰り返し発生してきたことや克服するための努力を重ねてきたことを知らせる。 ○大雨等により河川が増水し洪水が発生する。河川の水量が増えることにより、水の流れが速くなり、流す力が強くなることに気づかせる。また、川の流れの様子と地面や川原・川岸の様子とを関連づけて調べ、流れる水は流れの速さや水量の違いによって地面や土地を変化させるはたらきが違うこと、流れの速さや水量は、降水量等によって変化していることをとらえさせる。	・災害に関する年表、旧河道の地図・航空写真等や地域の言い伝え、遺構等 ・国土交通省水管理・国土保全局HP http://www.mlit.go.jp/river/ ・「災害から命を守るために」（文部科学省・防災教育教材 平成20年3月）

3 洪水の被害を知り、その危険性について考える。 ◇洪水が起こるとどのような被害を受けるのでしょうか。私たちの地域で考えてみましょう。 4 洪水に対しての工夫や安全な行動について考える。 ◇洪水による被害を減らすために私たちにはどんなことができるのでしょうか。	○洪水の種類や原因について整理する。 集中豪雨・台風・都市部低地の堤防決壊や春先の融雪等 ○地域によって洪水の種類や被害の受け方は様々であることを具体的な事例をもとに考えさせる。 ・台風による大雨や、梅雨などで雨が降り続くと大きな被害がでることを理解させる。集中豪雨では、短時間に強く降り、雨の降る範囲も限られるが、(川の上流部で大雨になると、その下流で)大きな被害がでる場合もあることを理解させる。 ・被害は人的なもの、家屋、交通、通信、産業等広い範囲に及ぶことを理解させる。 ・水害につながる気象の例を具体的に挙げ、自分たちの地域の特性と関連付けて考えさせる。 ○川に設置された護岸用の蛇かご、水力を弱めるブロック、砂防堰堤、分水路などの役割について理解する。 ○正しい情報を知り、安全に行動することをおさえる。 ・避難の際には川には近寄らず、テレビ、ラジオ、広報等により、正しい情報を知ることや自治体からの避難勧告等にも留意することを知らせる。	・増水で決壊した川や増水による被害の様子などの写真資料 ・国土交通省土砂災害映像(動画)ライブラリ http://www.mlit.go.jp/river/sabo/movie_library.html ・国土交通省 ハザードマップポータルサイト http://disapotal.gsi.go.jp
--	---	--

5 評価

- ・洪水の危険性と地域に発生しやすい洪水について理解し、安全な行動の仕方が分かったか。
- ・川の水量が増えると土地を削り、削った土を運ぶ力が大きくなり、崖くずれや洪水などの災害を起こすことがあることを理解できたか。

6 その他

参考資料

- ・「災害から命を守るために」(文部科学省・防災教育教材 平成20年3月)
- ・気象庁参考資料「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」(H25.3予定)
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>
- ・国土交通省 河川局情報ホームページ <http://www.mlit.go.jp/river/>
- ・国土交通省土砂災害映像(動画)ライブラリ
http://www.mlit.go.jp/river/sabo/movie_library.html
- ・国土交通省 ハザードマップポータルサイト <http://disapotal.gsi.go.jp/>

小学校展開例3

もっとまちをしりたいね

1 教科等名

生活科（2年）

【第1学年及び第2学年 内容（3）地域と生活】

2 ねらい

- （1）自分たちの生活の場である地域の公共施設を訪ねたり、調べたりすることを通して、それを支えている人がいることに気付かせる。
- （2）地域の公共施設を大切にし、きまりを守って正しく利用することができるようにする。
- （3）まちで見つけたことを、適切に表現して伝えることができるようにする。

3 指導計画

（22時間 展開例11～14／22）

- （1）自分のまちの自慢をしたり、好きな場所について話し合ったりする。（1時間）
- （2）好きな場所でできることや楽しいことを紹介する。（1時間）
- （3）計画を立て、公共施設を探検する。（4時間）
- （4）図書館や児童館などの公共施設を利用する。（4時間）
- （5）まちの標識や看板を探し、それが何のためにあるか考える。（4時間）
- （6）見付けたことや知ったことの発表会を計画し、準備をする。（4時間）
- （7）まちで見つけたことや学んだことの発表会を開く。（4時間）

4 展 開

学習内容・活動	◇主な発問等	教職員の支援等	資 料
1 防災に関する表示や標識の写真を見て、それぞれが何を伝えているのかを考え、話し合う。 ◇絵や図、記号や文字などを使って知らせる物が表示や標識です。これらは、私たちに何を伝えようとしているのでしょうか。		○標識の写真や実際の表示などを提示し、関心を高めるようにする。 ○どこで見たことがあるのか、自分の経験を思い起こし考えるように声かけをする。	・標識の写真や本物の標識や表示
2 地域や学校内にある消防設備を探す。 ・「消火器は他の場所にもないかなあ。」 ・「マンションに消火栓があったよ。」 ・「学校の中に防火シャッターがある。」		○発見した喜びを共感するとともに、安全に気を付けながら活動するように指導する。 ○表示を探すだけでなく、その場で誰に何を伝えようとしているのかを考えるように助言する。	・発見カード

・「町内に防災倉庫って書いてある建物がある。」 ・「道に『消火栓』という看板をみつけたよ。」 3 見付けた表示を絵や写真で表し、何を伝えているのかを発表する。 ◇探検して見つけた設備や看板について発表してもらいます。 ・「消火栓の看板は赤いです。」 ・「消火栓のそばの道路は、車を止めてはいけないという線が引いてあります。」 ・「貯水池は、洪水の時に水をためるのかなあ？」 4 友達の発表を聞いて分かったことや感想をワークシートにまとめる。	○見付けた場所、その施設の絵を記録するように学習カードを準備する。 ○フロアーマップを使って、どこにあるのかを示すことや、絵や図を描かせて標識を分かりやすく示すことなどを伝え、児童が工夫できるように指導する。 ○見付けた施設や看板の役割について話し合ったり、教職員が助言したりする。	・ワークシート
--	---	----------------

5 評価

(1) さまざまな表示は、まちの人の生活に役立っていることに気付いたか。

小学校展開例 4

けがを防いで簡単な手当ができるようになろう

1 教科等名

体育科（5年）

【第5学年及び第6学年 内容G保健（2）けがの防止】

2 ねらい

けがの防止について理解させるとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。

3 指導計画

（4時間4／4）

- （1）身の回りで起きるけがや事故は「人の行動」と「周囲の環境」が原因となっていることを理解する。（1時間）
- （2）学校などの身の回りで起こるけがを防ぐには「危険な場所に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことが大切であることを理解する。（1時間）
- （3）災害時も含めて学区や通学路などの身の回りで起こるけがを防ぐには、「危険な場所に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことが大切であることを理解する。（1時間）
- （4）けがの悪化を防ぐためにできるだけ早く処置したり、近くの大人に知らせたりすることが大切であることを理解する。簡単なけがの手当の方法を理解し、手当ができるようにする。（1時間）

4 展 開

学習内容・活動 主な発問等（◇）	教職員の支援等	資 料
1 けがをした時の養護教諭と児童の事例について考え、ワークシートに記入する。 【事例】転んで膝をすりむいたAさんが、あわててやってきました。保健の先生は、Aさんの傷をみて困ってしまいました。なぜ困ってしまったのでしょうか。 ◇この事例を読んで、なぜ保健の先生は困ってしまったのかその原因を考えて、発表してください。 「たくさんの血が出て、大けがだったから。」 「傷口を洗わず、砂だらけだったから。」	○事例を掲示する。 ○養護教諭が困った原因について考え、学習カードに書き込むよう指示する。	事例 学習カード

◇なぜ洗わないといけないのでしょうか。 「ばい菌が入るからかなあ。」 2 学習課題を知る。	○養護教諭が困った理由は、傷口を洗うことができない状況だったからということを伝える。 ○なぜ洗わないといけないのか、理由を考えさせる。	
けがをしてしまったときの手当の仕方を学ぼう。		
3 けがをしたときの対処の仕方について養護教諭から話を聞き、実習する。 ◇けがをしたとき、どういう手当をすればよいかを保健室の先生に教えてもらいましょう。 ◇ペアになって対処方法の実習をしましょう。	○すり傷、切り傷、鼻出血、やけど、打撲のうち、3種類程度を扱う。 ○それぞれのけがの対処法について説明することを養護教諭と事前に話し合う。	
4 対処方法についてまとめる。 ・自分でできる簡単なけがの手当には「清潔にする」「止血する」「冷やす」等の方法がある。 ◇軽いけがの場合は、今日学習した手当を素早く行いましょう。その後、保健室の先生やお家の人に見てもらいましょう。 ◇近くにいた人が大きなけがをしてしまった場合は、よく観察して、必要に応じて近くの大人や救急機関(119番)に知らせましょう。	○災害時だけでなく、普段も含めてどんなときでも対処できるように助言する。	学習カード
5 学習をふりかえる。 ◇今日学習したことを学習カードにまとめましょう。		

5 評価

- (1) 簡単なけがの手当ができるようになったか。
- (2) 自分にできる簡単なけがの手当には、「清潔にする」「止血する」「冷やす」などの方法があることを理解できたか。
- (3) けがの悪化を防ぐ対処として状況を速やかに把握すること、近くの大人に知らせることが大切であることを理解できたか。

6 その他

・学習カード

(例)

[illegible]

活動1で記入

学習のふりかえりで記入

- ・参考 小学校体育指導の手引き
(川崎市立小学校体育研究会H22.3)

・指導のための資料

やけどのとき

すぐにためた水で冷やす。直接流水をあてない。衣類は脱がずにそのまま冷やす。水ぶくれができていてもつぶさない。



ガラスなどできたとき

きれいな水で洗い、ガーゼなどで傷口をおさえ、血をとめる。



すりむいたとき

きずぐちを水であらい、消毒をしよう。



鼻出血

少し下を向き、鼻を押さえ、鼻の付け根を冷やす。鼻につめものをしたり、首をたたいたりしない。



だぼくなどでいためたとき

氷などで冷やし、動かさないようにする。

參考資料

- ・「e カレッジ」総務省消防庁ホームページ<http://open.fdma.go.jp/e-college/>
- ・防災学習テキスト「自然災害から命を守ろう！」川崎市教育委員会

小学校展開例5

わたしにできること

1 教科等名 道徳（6年）

【内容4主として集団や社会とのかかわりに関すること（3）社会的役割の自覚と責任】

2 主題名 わたしにできること

3 ねらいと資料

- ・相手の立場になって助け合ったり、学級や学校、地域の一員として自分の役割を自覚し、協力して働こうしたりする態度を養う。（4-（3）役割自覚、責任）
- ・資料「新潟県中越地震の避難生活」

4 主題設定の理由

災害後の生活においては、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って行動することが日常以上に求められる。具体的な災害や避難所の様子から自分の役割を自覚し、取るべき行動をイメージできるようにすることで、集団や社会にかかわっていくことの大切さについて考えさせたい。また、災害後の避難所での不自由な生活を想起させ、日常の生活においても身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たしていく態度を養いたい。

5 展 開

学習内容・活動 ◇発問	留意事項
1 自分たちが所属している集団を想起して話し合う。 ◇ みなさんはどのような集団に所属していますか。 ・学級 ・学校 ・係 ・班 ・委員会 など	○自分が様々な集団の一員であることを想起させることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
2 写真資料「新潟県中越地震の避難生活」を見て話し合う。 ○ 写真1、2を見る。 ◇ 避難した人々はどんな思いで毎日を過ごしていたのでしょうか。 ・水道が使えなくなって不安だ。給水所から水を運んでくれる人もいるようで助かる。 ・ガスや電気も使えない。夜はどうなるのだろう。	○写真3を提示し、ライフラインがストップした状況をつかませる。 ○補助資料として映像を提示したり、体験談をもとにした読み物資料を活用したりして、生活の不自由さを具体的にとらえさせる。また、様々な人たちが一つの場所で共同生活をしなくてはならないことを押さえる。

・ お年寄りや病気の人はどうなるのだろうか。 ・ 家が壊れた人はどこで生活するのだろうか。 ・ トイレはどうなるのだろうか。 ・ 自分の家のように生活できなくてつらい。 ・ もし大きな災害が起き、その後の生活の中で自分は何ができるのだろうか。 ○ 緊急搬送、食糧供給の写真を見る。 ◇ 多くの支援者が駆けつけてくれたとき、避難している人々はどんな気持ちだったでしょう。 ・ ありがたい。 ・ これで不安が少なくなる。 ・ 自分たちもできることをやっいてこう。 ◇ 小中学生は、どんな考えで避難所の一員として働いていたのでしょうか。 ・ 様々な不便さを我慢しなくてはならない。自分より小さい子どもたちもしっかり支えなくては。 ・ 体調が悪い人、手を貸してほしい人が周りにいないか気にかけてみる。 ・ 支援に来てくれる人への感謝や力を合わせて乗り切ろうとする気持ち。 ・ 避難所でたくさんの人と生活するときはルールをしっかり守ることが大切だ。 ・ 自分のことはできるだけ自分でするようにしたい。 ・ 励ましたり声を掛け合ったりしよう。できる手伝いをしよう。	○東日本大震災で小中学生が避難所の一員として自分たちにできることを行った例をあげ、(バケツリレー、清掃、支援品の運搬等)考えさせる。 ○高齢者や乳幼児、体調の悪い人など様々な人が周りにいたときの小中学生の思いを、自分と重ね合わせて考えられるようにする。 ○避難所となった場合の具体的なルールについて教える。
3 今までの自分の生活を振り返る。 ◇ 今まで、地域や学級、学校での自分の役割を考え、協力して取り組んだりしていましたか。 ・ 今までは地域の一人としてがんばっていなかった。自分も地域の一員として、普段から一緒に活動したり挨拶をしたりしていきたい。 ・ クラブ活動では最高学年としての自覚をもって活動していた。普段から困っている人はいないか周りに気を配ることのできる人になりたい。 ・ 今までは自分のことは自分でしてこなかったが、これからは自分のことは自分でする習慣をつけたい。また自分のことだけではなく自分にできることを進んで行っていきたい。	○現在も自分が地域の一員であることの自覚をもたせる。
4 教職員の説話を聞く。 ○「主体的に社会の形成に参画する」ことに対して、教職員の体験談を話す。	○教職員の子どものころの体験を交えて分かりやすく語り聞かせる。

6 評価

- ・ 集団生活において助けられたり、助けたりする人々の思いを想像することで、自分の役割を自覚する大切さについて考えを深めることができたか。

写真1 初期段階の避難所内の生活



写真2 車中生活のようす



写真3 ライフライン（電気、ガス、水道）の停止



写真4 ヘリコプターによる緊急搬送



写真5 避難所の追加開設



写真6 備蓄してある食糧の提供



小学校展開例6

オリジナル防災マップをつくろう

1 教科等名

総合的な学習の時間（中学年）

2 ね ら い

防災マップ作りを通して、自分の住むまちの災害による危険性を知り、被害を軽減しようとする意欲を高めるとともに、自分の住むまちの避難場所を確認し、災害時、自主的に避難できるようにする。

3 指導計画

（14時間 展開例7～10／14）

- （1）地域の人の話を聞く。（地域の過去の災害について）（2時間）
- （2）地域を歩く。（地域の物的・人的資源を知る）（4時間）
- （3）自分たちの地域の防災マップをつくる。（4時間＋放課後）
- （4）つくったマップや活動を通して考えたことを発表し合う。（2時間）
- （5）参観会等で発表し、保護者と一緒に話し合う。（2時間）

地域の様子や過去の災害、防災に関する情報を加えて地図化する。その際、災害図上訓練（DIG）等の手法を使い、家族や近所の友達と一緒に学習し、起こり得る災害と災害時の対応を具体的なものとして捉えるようにする。災害図上訓練（DIG）は、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練である。【参考：静岡県地震防災センター <http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/>】

4 展 開

（1）本時の指導

学習内容・活動 ◇発問	教職員の支援等	資料
1 身近な地域で起こる災害について想起する。 ◇通学中に起きる災害にはどんなものがあるでしょうか。 ・地震、台風、火事、大雨や洪水、大雪…。 ◇通学中にこのような災害が発生した場合、どうすればよいのか考えましょう。 ・避難場所に避難するとよいと思うが避難場所はどこか。	○「災害発生は平日の午後3時」「季節は夏」「天気は雨」など、日時や天候、季節等の前提条件を設定して提示する。	

・広い避難場所のどこに集合するのか。 ・近づかない方がよいところはどこか。 ・家、学校、その他の場所にいる時、自分だけの時は、どうしたらよいか。 2 防災マップ作りを通して身近な地域での具体的な危険性について考える。 ◇災害が起きても大丈夫なように、自分の通学路を中心とした、オリジナル防災マップをつくろう。 ・白地図を用意する。 ・自分の家と学校に印を付ける。 ・避難場所に印を付ける。 ・避難する経路（道）に色を付ける。 3 保護者と自分の家の周辺地域に出てマップの内容を確認する。（放課後） ◇まちに出かけて、マップを完成させましょう。 ・危険箇所等（落ちてくる・倒れてくる・移動してくる、津波の際危険そうな場所、津波からの避難に適している場所、大雨の際の側溝の状況（蓋の有無）、アンダーパス）を探して地図に書き込む。 ・津波避難場所・避難建物を目で確認する。（可能な限り、避難場所を写真撮影する） ・過去の津波浸水区域や洪水の浸水区域を歩いて確認する。 ・保護者との点検の結果を受けて避難ルートを見直し、自分のオリジナル防災マップにする。 4 自分のマップをもとに、各地区ごとに集まって交流し合い、地区ごとのマップを完成する。	○地震の時にどうするか、どこに避難するかを話し合えるように学習参観等を利用し、保護者参加型の学習ができるようにする。祖父母の参加もよい。 ○災害に関する危険箇所、危険回避の方法などを防災マップに盛り込ませる。 ・撮影した避難場所の写真を地区の地図に貼ったり、過去の浸水域に色を塗ったりする。 ・見つけた危険箇所を付箋紙に書いて、地区の地図に貼る。	「eカレッジ」総務省消防庁ホームページ ・地震災害に特に注意が必要な地域では、一時避難場所、広域避難場所や避難路等を、あらかじめ地図上で把握する。 ・津波の発生が予想される地域では、過去の津波浸水区域、津波避難場所・避難建物、避難路等をあらかじめ地図上で把握する。
--	--	--

5 評価

- ・防災マップ作りを通して、自分の住むまちの災害危険性について気付き、考えることができたか。

6 その他

- ・危険箇所のうちで他人の家に関わる物は、対象外とする等の配慮を事前しておく。
- ・ハザードマップの浸水区域や決められた避難場所を確認するだけでなく、自分で危険だと思ふ場所、安全だと思ふ場所を考えたり、確認したりするようにする。

参考資料

- ・「eカレッジ」総務省消防庁ホームページ <http://open.fdma.go.jp/e-college/>
- ・気象庁作成津波防災啓発DVD「津波からにげる」
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html

小学校展開例7

わたしたちの地域の自然災害

1 教科等名 総合的な学習の時間（高学年）

2 ねらい 我が国の国土では、地震や津波、風水害、火山災害、雪害などの様々な自然災害が起こりやすいこと、その被害を防止するために国や地方自治体が様々な対策や事業を進めていることなどを調べ、地域の災害の危険性と安全な行動について考えることができるようにする。

3 指導計画 (17時間 展開例1～6 / 17)

(1) 自分たちの地域で発生しやすい災害について調べる。 (6時間)

(2) 調べたことをポスターにまとめる。 (3時間)

(3) 学年の中でポスターを使って発表会を行う。 (2時間)

(4) 作成したポスターを修正し、地域の人に身近な災害と安全な行動の仕方を伝える。 (6時間)

4 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援	資料
1 国内で発生する災害にはどんなものがあるか考える。(資料※スライド1～5を提示) ◇被災経験やニュースなどから見聞きしたことを発表しましょう。 ・地震、津波 ・台風、洪水、大雨 ・火山の噴火 ・落雷 ・竜巻 2 国内で過去に起こった大きな災害について学習し、どんな地域でも災害が起こることを理解する。(スライド2・3を提示) ・日本中で起こっている。 ・大きな被害が出ている。 ・自分たちの地域は台風の被害をたくさん受けている。	○経験や身近な人の話のほか、ニュースで見聞きしたことやスライドの写真を手掛かりに児童の意見を引き出す。 ○災害とは、台風や地震などによって被害や損害を受けることを総称したものであることを説明する。 ○山でも海でも、まちの中でも、どこでも災害が起こる可能性があることを説明する。	・※防災教育教材「災害から命を守るために」(文部科学省H20.3月)を活用 ・「こどもぼうさいe-ランド」総務省消防庁ホームページ http://open.fdma.go.jp/e-college/eland/index.html

3 地域で発生しやすい災害について調べる。 ◇調べ方別にグループを作り、自分たちが住んでいる都道府県で起きやすい災害を調べましょう。 ・図や年表等の資料から ・お年寄りへのインタビューから ・自治体の防災施設を訪問して ・防災担当者から 4 調べたことのまとめ方、活かし方について考える。 ・ポスターや新聞にまとめ、地域の人に読んでもらえるようにする。	○地震や津波、火山活動、台風や長雨による水害や土砂災害、林野火災、雷、雪害など地域の特徴的な災害とその対策について調べやすい資料を整理しておく。 ○自治体の防災担当者や防災教育推進委員会等の協力を得て、災害を経験した人（語り部）をゲストティーチャーとしてリストアップしておく。 ○特徴的な被害や、その被害を最小限にするために、自分たちの地域が行っている取組を紹介するとともに、自分の考えたことや行動目標を合わせて整理する。 ○まとめ方について見通しをもたせる。	資料の例 ・河道の移り変わりが分かる地図 ・過去の災害発生や堤防・河川改修の記録等をまとめた年表 ・被災した方の手記 ・被災や復興の様子が分かる写真 ・津波、豪雪等を児童が実感的に理解できる高さや重さの数値 ・国土交通省 ハザードマップポータルサイト http://disapotal.gsi.go.jp/ ・各自治体が作成しているハザードマップ ・地域と災害、防災に関する情報に解説や説明を加えたポスターを例示する。
--	---	---

5 評価

学習を通して、自分の住む地域の災害の危険性について理解することができたか。

参考資料

- ・「ハザードマップポータルサイト」国土交通省
<http://disapotal.gsi.go.jp/>
- ・「こどもぼうさいe-ランド」総務省消防庁
<http://open.fdma.go.jp/e-college/eland/index.html>

小学校展開例8

わたしたちのくらしと火山

1 教科等名

総合的な学習の時間（高学年）

2 ねらい

- （1）自分たちの生活している地域の火山について調べる学習を通して、自然と密接に関わりながら生活していく大切さに気付かせる。
- （2）大地の変化について、地震や火山の噴火によって変化してきたことを自分の地域の大地の様子と関連付けながら調べることができるようにする。
- （3）火山の噴火による恵みや災害について考えさせ、普段から防災に対する意識を高め、安全に生活していこうとする態度を養う。

3 指導計画

（11時間 展開例 7～10 / 14時間）

- （1）世界や日本の火山について調べる。 （2時間）
- （2）火山による恵みについて調べる。 （4時間）
- （3）火山による災害と防災の取組を調べる。 （4時間）
- （4）火山に対して、学習を通して変化した自分の考えについて話し合う。 （1時間）
- （5）地域の人に自分たちが調べたことを発表する。 （3時間）

4 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援等	資料等
1 火山があることのよさや、火山の噴火による災害の状況について考える。 ◇火山があることで、わたしたちはどのような恵みを受けていたでしょう。 ・温泉が湧いて入ることができる。 ・地熱を利用したエネルギーを得られる。 ◇火山が噴火すると、どんな災害が起きることが考えられますか。 ・噴石、溶岩流、降灰、火砕流、火砕サージ、火山泥流、融雪泥流、火山ガス発生、地震、空振など	○温泉や地熱発電、火山噴火の写真や映像からイメージしやすいようにする。 ○過去に起きた火山の噴火により、どのような災害が起き、人々にどのような被害をもたらしたか過去の災害資料等をもとに調べさせる。 ○自分たちの地域の近くに活火山がある場合、噴火による大地の変化が見られる場所に見学に行き、観察させる。	・温泉、地熱発電、火山噴火等の写真や映像 ・火山噴火による災害の様子の写真や新聞記事 ※新聞記事等

2 火山の噴火による大地の変化について調べる。 ◇火山の噴火により、わたしたちが生活している大地にどのような影響をおよぼしたのか実際に調べてみましょう。 ・地層の見学（火山灰やシラス層など） ・火山灰の降灰により建造物が埋もれている所 ・被害に遭った家屋 ・火砕流や火山泥流の跡地 など 3 調べたことをまとめ、発表する。 ◇見学したり、調べたりしたことを分かりやすくまとめて発表しましょう。 4 火山の噴火による地域の防災の仕組みや取組について調べる。 ◇火山が噴火したとき被害を少なくするために、わたしたちの地域ではどのように防災に取り組んでいるのでしょうか。 ・気象庁が発表する噴火警報や噴火警戒レベルについて ・噴火に関する情報が伝わる仕組みについて ・噴火の際の住民の避難の仕方について ・自治体が行っている避難訓練について ・避難場所、避難経路、避難時の危険箇所等について 5 調べたことをまとめ、自分たちにできる取組を考える。 ・避難経路マップの作成 ・日常の備え ・家族との連絡等	活火山が近くでない場合やさらに詳しく調べさせる場合は理科の教科書やインターネットを活用して調べ学習に取り組ませる。 ○グループごとに調べる視点や方法を決めて活動させる。 ○活火山の近くでは、火山の活動状況について、常に最新の情報の入手をすること、噴火が起きた場合に、被害を少なくするために行われているいろいろな取組があることを理解させ、その内容について調べ学習に取り組ませる。見学や関係者へのインタビューなども行わせる。 ○まとめて終わるだけでなくこれからの生活に役立てていこうとする意欲を高める。 ○地震や火災の避難訓練と同じように、どのようなことに気を付ければよいかを考えさせ、訓練へつなげていく。	・博物館や ・地元気象台の活用 ・ワークシート ・地元火山の警報レベル ・自治体の防災マップ ・避難訓練マニュアル
---	--	--

5 評価

火山の噴火に対する防災対策について知り、自分でできる防災対策に取り組もうとするとともに、自然と密接に関わりながら生活していこうとする態度を身に付けたか。

小学校展開例9

火事になったら

1 教科等名

特別活動 学級活動（低学年）

【1学級活動（2）日常の生活や学習への適応及び健康安全

カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成】

2 ねらい

火災による危険やその場に応じた避難の基本的な行動を理解し、特に自分として気を付けることを決められるようにする。

3 展 開

学習内容・活動	◇主な発問等	教職員の支援等	資 料
1 火災のビデオを見て、火災発生時、どんな危険があるか話し合う。また、火災をみた時の経験やテレビ・新聞等で知った火災のことについて発表する。		○火事の恐ろしさを実感としてつかめるようにする。 ○火や煙にまかれ、やけどをしたり、時には死にいたることもあることについて気づく。	スライド映像等
火災発生時の避難の仕方や行動について考えよう。			
2 避難するときに、どんなことに注意したらよいか考える。 ◇火事が起きたときには、どんなことに注意して避難したらよいでしょうか。		○学校にいるときは、先生の指示をよく聞き、約束を守ることや、避難場所まで、落ち着いてしかも機敏に行動することを確認する。 ○慌てた行動をとるとけがなどの危険性につながることに気づかせる。（二次災害） ○避難するときに必要なものやとるべき行動について気づかせる。 ○火災発生場所・状況等を正確に聞き取らせる。 ・窓を閉める ・カーテンを開ける。 ・ガス・ストーブを消す。	校舎配置図と避難経路図
3 火災発生の非常放送を聞き、的確な判断と落ち着いた行動をとるための話し合いをする。 ・非常放送内容の把握		○突然起こる災害としてとらえさせ、避難に必要なものを確認する。 ・ハンカチや防災ずきん等	
4 実際に避難してみる。			
5 学習してわかったことや、特に自分として気を付けることをワークシートにまとめる。		○火災場所や風向によって避難経路や避難場所が変わることもあるということを伝える。	

5 評 価

- ・火災の恐ろしさを知り、自分の命を守るために、特にどのような行動をとったらよいのかを決めることができたか。
- ・諸注意を守り、落ち着いて避難することができたか。

小学校展開例 10

地しんが起これたらどうするの

1 教科等名

特別活動 学級活動（低学年）

【1学級活動（2）日常の生活や学習への適応及び健康安全

カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成】

2 ねらい

（1）学校で地震が起こった時、状況に応じた避難ができるようにする。

（2）地震が起こった時や避難するときに、安全に行動するため、特に自分として気を付けることを決められるようにする。

3 指導計画

（1）事前指導 地震による被害の写真を提示し、地震で大きな被害がであることを実感することができる。（帰りの会で指導。家庭で地震について話し合ってくるように伝える。）

（2）本時の指導

（3）事後指導 ・道徳（読み物資料等で生命を大切にしようとする心情を育てる。）
・学校行事 避難訓練（地震）（地震のときに、指示に従って素早く安全に行動することができる）

4 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援	資料
1 授業中に地震が起きた場合を想定して、指示を聞き、机の下にもぐる。 2 教室で地震が起こったときの危険や自分の身がどうなるか考える。 ・落ちてくる：電灯、テレビなど ・倒れてくる：本棚、ドアなど ・移動してくる：机、椅子など 3 昼休みに地震が起こった場合、どうすればよいのか考える。（昼休みの教室では、机が後ろに固めて置いてある。） ◇昼休みに地しんが起こったとき、どうしたらよいのか考えよう。	○以前に学習した避難の仕方を思い出させ机の下にもぐることを確認する。 ○いつ、どこで起こるか分からないことをおさえる。 ○このような危険から身を守るために、机の下にもぐったり、頭を抱えたりすることをおさえる。	・「落ちてくる」「倒れてくる」「移動してくる」と記載されたカード

・物が落ちてこない場所を探す。 ・倒れそうなものから離れる。 ・移動してくるものから離れる。 ・頭を守りながらしゃがむ。 ・近くの机の下にもぐる。など 4 実際に机を後ろに下げてロールプレイを行う。 5 学校で地震が起こった場合の避難場所への避難の仕方を確認する。 ・放送（教職員の話）をよく聞く。 ・指示に従う。 ・「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せる。 6 地震が起こったときに、特に自分がとるべき行動について、ワークシートを記入する。 7 感想を発表する。	○自分の机の下に、他の人がもぐっていた場合には、どうしたらよいかも考えさせ、場所や状況に応じて安全の確保の仕方が変わることをおさえる。 ○テレビの模型を使って危険な様子をイメージできるようにする。 ○揺れがおさまった後の避難場所への避難の仕方を確認する。 ○地震で停電になった場合は、放送機器が使用できないこともあるので、その時は、教職員の指示を聞いて行動することも確認する。 ○中間休みなどに地震が起こった場面を取り上げ、どうしたらよいかを考えてワークシートに記入させる。	・テレビの模型 ・学校の校舎図 ・ワークシート
--	--	---

5 評価

(1) 状況に応じて、特に自分としてどんな避難の仕方をしたらよいか決めることができたか。

(2) 安全に行動しようとする意識をもつことができたか。

小学校展開例 11

休み時間に大地震がおきたら

1 教科等名

学級活動（中学年）

【1学級活動（2）日常の生活や学習への適応及び健康安全

カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成】

2 ねらい

大地震発生時に学校内の様々な場所で予想される危険を考え、自分の身を守るためにはどのような行動をとればよいかを話し合うことを通して、どのような場面でも安全に避難することができるようにする。

3 展 開

（休み時間に震度6弱の地震が発生したことを想定）

学習内容・活動	◇発問	教職員の支援等	資料
1 教室にいるとき、震度6弱の地震が起きたらどうなるかを予想し、対応の仕方を考える。 ◇震度6弱の地震がきたらどうなるだろう 「ものすごく揺れて、立ってられない。」 「転んじゃうと思う。」 「テレビが倒れて窓ガラスが割れる。」 「蛍光灯が落ちてくる。」 ◇その時、みんなはどうしたらいいだろう。 「机の下にもぐって頭をしっかり守る。」 「校内放送や先生の言うことを聞いて運動場へ避難する。」 2 震度6弱の地震が起きたとき、教室以外の様々な場所にはどんな危険があるのか考える。 ◇廊下や階段にいる時はどうしたらいいだろう ◇トイレにいる時はどうしたらいいだろう。 ◇運動場や中庭にいる時は？ ◇図書室にいる時は？ 3 それぞれの場で自分の身を自分で守るためには、どのように行動したらよいか話し合う。	○防災教育教材「災害から命をまもるために」（文部科学省H20. 3）を活用し、震度6弱の揺れがどのくらいなのか想像する。  ○あわててすぐに運動場に出た時の危険についても考えさせる。 ○休み時間はどこにいるのかを問いかけて、めあてにつなげる。 ○それぞれの場所ごとに考えやすいように、場所ごとの写真やワークシートを準備し考えを整理しやすいようにする。 ○頭や体を守るためにはどうしたらよいか、資料を見て確認する。	スライド教材 防災テキスト	

・廊下や階段にいる時 ・トイレにいる時 ・運動場や中庭にいる時 ・図書室にいる時  4 班ごとに話し合った内容を発表した後、実際にその場に行って調べる。 5 安全に避難をするためにはどうしたらよいか確認する。 ◇安全に避難するために大切なことはなんでしょう。 ・「落ちてこない・倒れてこない」場所に避難すること ・「先生や上級生の指示に従う。」 6 学習してわかったことや特に自分として気を付けることをワークシートにまとめる。	  ○大切なキーワードを児童の発言から拾い上げて板書し、印象づける。 「危険から離れる」 「頭を守り 落ち着いて行動」 「ものが『落ちてこない』場所へ避難」 「ものが『倒れてこない』場所へ避難」 「ものが『移動してこない』場所へ避難」 ○自分で正しく判断することが大切であることを知らせる。 ○揺れが落ち着いたら運動場へ避難することを確認する。	ワークシート
---	---	---------------

4 評価

- ・大地震の恐ろしさを知り、自分の命を守るためにどのような行動をとったらよいのか理解できたか。
- ・大地震が発生したときに特に自分としてどう行動したらよいかを決めることができたか。

5 その他

参考資料

- ・防災教育教材「災害から命を守るために」文部科学省（H20.3）
- ・防災学習テキスト「自然災害から命を守ろう！」川崎市教育委員会

小学校展開例 12

どうする？大雨だ、強風だ、かみなりだ

1 教科等名

特別活動 学級活動（中学年）

【1学級活動 （2）日常の生活や学習への適応及び健康安全

カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成】

2 ねらい

- （1）大雨や強風、雷などの気象災害がもたらす大規模な災害によって、自分の身の回りに起こる災害の危険について理解できるようにする。
- （2）大雨や強風、雷などの気象災害から、自分の命を守るための方法について理解し、特に自分として気を付けることを決められるようにする。

3 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援等	資料
1 大雨や強風、雷などによる気象災害について学習することを知る。 ◇大雨や強風、雷について考えてみましょう。激しい雨や風、雷を経験したことはありますか。（スライド1を提示） 2 大雨や強風、雷によってどんな危険があるか、どのように身を守ればよいか考える。 ◇大雨が降っているとき、どんなところが危ないと思いますか。 ◇けがをしないために、自分だったらどうしますか。（スライド2を提示） <共通> ・むやみに外に出ない。 ・一緒にいる大人の指示に従う。 <まちの中> ・浸水しているときは足元に気を付ける。 <山の近く> ・がけや山肌など危ないところに近づかない。 <川や海の近く> ・近づかない。	○これまで経験した大雨、強風、雷について話し合わせ、それらが気象災害につながることを説明する。 ○地域で最近起こった大雨、強風、雷などがあれば思い出させる。 ・災害につながる気象の例を具体的に挙げる（集中豪雨、台風、寒冷前線による大雨、強風、落雷など） ○スライドの絵をヒントに、どんな身の守り方があるか意見を引き出すようにする。 ○状況や場所を具体的に示して想像させる。 ・学校や家の近く、通学路 ・地下など ・地域の山、崖、海、川など ○ワークシートを配布し、記入させる。 ○丸を付けたところとその理由を発表させる。 ○スライドを見せて、主な危険を説明する。	防災教育教材「災害から命を守るために」（文部科学省H20.3） 「eカレッジ」（総務省消防庁ホームページ）

◇絵を見て、強風が吹いているとき、どんなところが危ないかワークシートを使って考えてみましょう。危ないと思うところに丸を付けてみましょう。 ◇けがをしないために、自分だったらどうしますか。 (スライド3を提示) ・むやみに外に出ない。 ・一緒にいる大人の指示に従う。 ・落ちてくるもの、飛んでくるものに気を付ける。 ・(雨と風のとき) 雨合羽を着る。 ◇雷が鳴っているとき、どんなところが危ないと思いますか。 ◇けがをしないために、自分だったらどうしますか。 (スライド4を提示) ・むやみに外に出ない。 ・一緒にいる大人の指示に従う。 ・建物の中に避難する。 ・電化製品に触らないようにする。 ◇雨が上がった後、どんなところが危ないと思いますか。 ◇けがをしないために、自分だったらどうしますか。 (スライド5を提示) ・むやみに外に出ない。 ・一緒にいる大人の指示に従う。 ・川や水路に近づかない。 ・ぬかるんだ道や路肩などに気を付ける。 3 災害に応じて、特に自分として身を守るために気を付けることを決める。 ◇大雨、強風、雷のとき、どのようなことに気を付けて行動するか決めましょう。 (スライド6を提示)	○スライドの絵をヒントに、どんな身の守り方があるか意見を引き出すようにする。 ○スライドの絵をヒントに、どんな身の守り方があるか意見を引き出すようにする。 ○状況や場所を具体的に示して想像させる。 ・学校の近くや通学路 ・公園、広場 など ○スライドの絵をヒントに、どんな身の守り方があるか意見を引き出すようにする。 ○状況や場所を具体的に示して想像させる。 ・学校の近くや通学路 ・地域の川、水路 など ○災害に応じた対応を確認する。 ○気象の変化に気付いた場合は、安全に行動できるように指導する。	
--	--	--

4 評価

- (1) 気象現象がもたらす大規模な災害の危険について理解できたか。
- (2) 気象災害から、自分の命を守るための方法について理解し、特に自分として気を付けることを決めることができたか。

5 その他

参考資料

防災教育教材「災害から命を守るために」小学校低学年・高学年用 (文部科学省、H20.3)



[スライド 1]



[スライド 2]



[スライド 3]



[スライド 4]



[スライド 5]



[スライド 6]

小学校展開例 13

いざという時の備えは

1 教科等名

特別活動 学級活動（高学年）

【1学級活動（2）日常生活や学習への適応及び健康安全

カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成】

2 ねらい

日常生活の心構えや非常持ち出し品などの備えについてまとめるとともに、特に自分として心がけておきたいことを「我が家の防災ルール」として作成できるようにする。

3 展 開

学習内容・活動	◆主な発問等	教職員の支援等	資 料
1 大地震に備えて、日常的な備えを考える。 ◇大地震の発生に備えて、普段からどんなものを準備しておくべきではないでしょうか。 ・大地震が起きた場合を予想し、どのような備えが必要になるか考え、ワークシートに記入する。		○大地震が発生した場合の状況を予想できるような資料（映像や写真など）を準備し、子どもたちに提示する。 ○地震などの自然災害に備えて、どんなものが必要なのかを考えるように助言する。	大地震の映像や写真 ワークシート
いざという時の備えとして、自分の家ではどんな準備や心がけが必要か考えよう。			
2 いざという時の備えとして、自分の家の中の対策や避難場所など、家族で話し合って、心がけておきたいことを発表し合う。 ◇皆さんの家では、どんな備えをしていますか。 ・自分の家の備えを家族の人に協力してもらいながら調べてまとめたものを発表する。		○事前に各家庭にも学習内容を周知し、協力依頼の文書を配布しておく。 ○大地震が起こった時を想定し、自宅での備えや非常持ち出しについて考えさせておく。 ○地域の広域避難場所や避難所になる場所、備蓄倉庫等について調べ、学区図に記すよう助言をしておく。	学区図 ワークシート
3 発表し合ったことを参考にして、特に自分の家の場合、どんなことが大切かをグループごとにアドバイスし合う。 ・家具の点検は？連絡方法は？ ・避難場所は？その道順は？ ・避難に必要な物は？その保管場所は？ ・近所の人との助け合いは？		○互いの家の状況にあった備えについて、助言し合えるようにする。	
4 災害用伝言ダイヤルなどいざというときの家族との連絡をとる方法について知る。			
5 自分の家にあった「我が家の防災ルール」を作成し、それをもとに家族で話し合う		○家族での話し合いは事後の活動とする。	



4 評価

- ・防災に関する身近な公共施設や防災倉庫などに関心をもてたか。
- ・大地震の恐ろしさを知り、自分の家として普段からどういうことを準備しておかなくてはならないかなどについて、「我が家の防災ルール」を作成することができたか。

5 その他

参考資料

- ・防災学習テキスト「自然災害から命を守ろう！」川崎市教育委員会
- ・災害用伝言ダイヤル「171」については巻末の付録を参照。

用意するものリスト（例）

- 貴重品
印かん・預金通帳・保険証・現金 など
- 携帯ラジオ（予備の電池も用意しよう）
- 懐中電灯（予備の電池も用意しよう）
- 非常食
缶づめ・ビスケット・チョコレート・水
火を通さなくても食べられるものなど
- 救急医薬品
胃薬・かぜ薬・持病薬・きず薬・目薬
鎮痛解熱剤・ガーゼ・包帯など
- 着るもの
下着類・セーター・タオル・軍手 など

小学校展開例 14

町の中でぐらっときたら

1 教科等名

特別活動 学級活動（高学年）

【1学級活動（2）日常の生活や学習への適応及び健康安全

カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成】

2 ねらい

学校の周囲を観察し、地震が起きたとき町にはどんな危険があるか、またそれを避けるためにはどのような行動を取ればよいかを話し合うことを通して、災害時に自分として気を付けることを決められるようにする。

3 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援等	資 料
1 阪神淡路大震災のビデオを見て、「大地震が来たら、町がどうなるか」を話し合い、本時のねらいをつかむ。 ◇自分たちの町に大地震が発生したらどうなってしまうだろう。 「大きなビルや家がたくさん崩れる。」 「町の道路や高速道路も崩れる。」 「〇〇城も倒れるんじゃないかな」	○地震の被害の大きさに気付くことができるように、震災直後の神戸市内を写したビデオを提示し、自分たちの町でも起こった時の様子について考えさせる。	V T R
2 学校周辺の通学路の画像を提示して、その場所で地震が起きたらどんな危険があるかを考え、話し合う。 ◇大地震が発生したとき、それぞれの場所はどうな状況になっているでしょう 【住宅地】 「ガラス窓が割れてふってくる。」 「屋根瓦が落ちてくる。」 「塀が崩れてくる」 【商店街】 「自動販売機が倒れる。」 「電柱が倒れる。」 「看板が落ちてくる。」 【公園やあきちにいたら】 「地面が割れることがある。」	○学校周辺の通学路で住宅地・商店街・川沿い等の画像を提示する。場面を思い起こしやすくするために、あらかじめ学区図も準備し、画像の場所を記しておく。 ○大地震が起こった時を想定し、それぞれの場所がどのようになるかを予想するよう声かけをする。	学区映像 学区図

【海や川沿い】 「堤防が崩れて川が氾濫する。」 「海では、津波が発生する」 3 町の中で地震が起きたとき、どのようにして危険を回避しなくてはならないかを知る。 ◇でかけている時に、地震にあったらどうしたらいいでしょう。 ◇おとなの人がまわりにいないときは、どうしたらいいでしょう。 「落ちてくるものから頭を守らないとならない。」 「倒れる物や移動してくる物、崩れる物から離れないといけない。」 「浸水被害が心配される場合、川の近くに行かない。」 ◇町の中で地震が起きた時、具体的にどのように行動すればよいでしょう。 「ガラス窓から離れる。」 「塀や家の下から離れる。」 「自動販売機や電柱など倒れやすい物から離れる。」 「頭を守る。」 「川から離れて高いところに逃げる。」 「広いところに集まりしゃがんでゆれがおさまるのをまつ。」 「からだの不自由な友達や小さい子どもなどにみんなで声をかけあい、助け合う。」 「地面が割れることがあるので気をつけて避難する。」	○川の増水による浸水が予想される区域を学区図に記す。   ○図を見ながら、倒れてくる物から身を守るためにはどうしたらよいか、問いかける。 ○内容を認め、話し合いで発表するよう声かけをする。	ワークシート
キーワードを板書する。 ・町にいる時に地震がおきたら、落ちてこない、倒れてこない、物が移動してこない場所に身を寄せる。 ・川沿いの低いところにいる時は、浸水を予想し、なるべく高いところに逃げる。 5 学習してわかったことや自分として特に意識したい身の守り方を決めてワークシートに記入する。 ◇学習したことを友達やおうちの人とでかけた時に、実際に確かめたり調べたりしてみよう。	○あわてることなく、自分のまわりを確認して、素早く危険を判断し、安全な場所に避難する。	ワークシート

4 評価

- ・町の中で大地震が発生したときの状況をイメージし、それぞれの状況によって、自分として特に意識したい身の守り方を決めることができたか。

5 その他

参考資料

- ・防災学習テキスト「自然災害から命を守ろう！」川崎市実行委員会

小学校展開例 15

火災を想定した避難訓練

1 教科等名

特別活動 学校行事

【4 学校行事 (3) 健康安全・体育的行事】

2 ね ら い

- (1) 避難経路を確認し、覚えさせる。
- (2) 避難の約束を理解し、実行できるようにする。
- (3) 緊急放送の意味を知り、適切な避難をできるようにする。

3 指導計画

- (1) 事前指導 ・火災の恐ろしさを知り、自分たちの避難経路を知る。
- (2) 本時の指導 ・緊急放送の意味を知り、適切な行動をする。
・担任の指示に従い避難をする。
- (3) 事後指導 ・自分たちの身を守るために、避難経路を知っておくこと
や避難の約束の大切さを知る。

※梅雨時や積雪時など季節や天候等により避難経路が変わることもあるため、実施時期や回数などは各学校の現状により決定する。

4 展 開

	児童の活動 ◇主な発問等	教職員の指導・指示 ※評価
事前指導 10分	1 火事の恐ろしさを知る。 ◇火事が起こったら、どうなるでしょう。 2 避難経路を知る。 3 避難時の守るべきことを知る。 4 緊急放送と避難について知る。 ◇緊急放送が流れてもあわてて行動せず、先生の指示に従います。	○火事が起こったらどうなるか考えさせる。 ○火ばかりでなく、煙の恐ろしさを知らせる。 ○避難経路図を使い、教室からの避難経路を確認させる。 ○地震に伴う二次災害としての火事もありうる。地震の避難訓練（一次避難）と組み合わせたり、地域住民との合同練習も適宜計画的に実施する。
避難 25分	5 警報・避難の放送を聞く。 ◇あわてずしゃべらないで放送を聞きなさい。 ◇窓側の人は、窓を閉めて下さい。 6 教職員の的確な指示で避難する。 ◇防災ずきんを被り、ハンカチで口鼻を覆い、避難します。廊下に並びなさい。 7 運動場に避難する。 8 運動場に整列し、待機する。	○静かに放送を聞かせる。 ○窓を閉めさせる。 ○防災ずきんを被らせ、ハンカチ等で口鼻を覆わせる。 ○廊下に並ばせる。 ○外へ出たら駆け足で集合させる。 ○速やかに整列させ、人員確認をする。 （教頭へ報告）

事後指導 10分	9 消防士や防災担当部局の方の話を聞く。 10 校長の話を聞く。 11 教室への移動。 12 訓練の反省をする。	○今回の訓練のねらいを再確認させる。 ○命を守ることの大切さを理解させる。 ○クラスごとに ・避難の約束は守れたか。 ・避難経路を覚えたか。
-------------	--	--

5 評価

- ・避難訓練に積極的に取り組み、適切な避難行動ができるようになったか。

小学校展開例 16

地震を想定した避難訓練（緊急地震速報）

1 教科等名

特別活動 学校行事

【4 学校行事 （3）健康安全・体育的行事】

2 ねらい

- （1）どのような状況でも、上からものが落ちてこない・横からものが倒れてこない・ものが移動してこない場所に素早く身を寄せて安全を確保することができるようにする。
- （2）教職員の指示を待たずに児童が自ら判断し行動できるようにする。

3 指導計画

（2時間）

- （1）学級指導（事前指導1時間 事後指導0.5時間）
- （2）避難訓練（0.5時間）

想定は、「授業中に震度5強の地震発生。緊急地震速報後10秒後に揺れ」とする。発達に応じて、教室ではなく、机がない場所にいる場合（特別教室）等での地震発生を想定する。

4 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援	資料
（1）事前指導 1 具体的な災害時の様子を想起させる。 ◇地震が起こったらどうなるか考えましょう。 2 緊急地震速報と避難経路を知る。 3 避難時の守るべきことを知る。	・資料をもとに、地震の怖さと、様々な状況に応じた自身の安全確保の仕方を理解させる。 ・地震に伴う津波、土砂崩れ、雪崩、火災などについて学年に応じて知らせる。 ・緊急地震速報について知らせる。 ・避難経路図を使い、教室などからの避難経路を確認させる。 ・教職員の指示がない場合でも自分で判断し、「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」安全な場所に身を寄せることを確認させる。	・防災教育教材「災害から命を守るために」文部科学省（H20.3） ・「その時、あなたはどいうする！緊急地震速報のしくみと心得」気象庁ホームページ

(2) 避難訓練 4 報知音（避難の放送）を聞いて、一次対応する。 5 教職員の指示で避難（二次対応）する。 6 運動場等に避難する。 7 運動場等に整列し、安全確認後、待機する。	・ 静かに放送を聞かせる。揺れが収まるまで机の下に入り脚をもたせるなど、落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を寄せて、二次対応の指示が出るまで自身の安全を確保させる。（学校の立地条件により、津波災害が想定される場合には、素早く上階や高台などあらかじめ決められた避難場所に避難する。） ・ 出入り口を開けさせる。 ・ 防災頭巾を被らせ、廊下に並ばせる。 ・ 建物のエキスパンション部や屋外に出る個所には落下物や段差、あるいは通路上に転倒物があることを想定し、落ち着いて移動させる。 ・ 外へ出たら駆け足で集合させる。（運動場が液状化や地割れで危険な場合があることも理解させ、安全な避難場所を確認することが重要である。） ・ 速やかに整列させ、人員確認をする。	
(3) 事後指導 8 防災担当の話を聞く。 9 教室への移動。 10 訓練の反省をする。	・ 自分で判断して身を守ることの大切さを再確認させる。 ・ 学年に応じて指導する。【低】避難のルールは守られたか。報知音、あるいは揺れそのものを、一人一人が察知した段階で、素早く身の安全を確保すること。【中】休み時間、通学中等だったらどうするか。【高】下級生等への配慮ができたか。校外活動や家庭生活で発生した場合の対応や、災害時伝言ダイヤルの使い方について知らせる。	

5 評価

- ・ 上からものが落ちてこない、横からものが倒れてこない、ものが移動してこない場所に素早く身を寄せて安全を確保することができたか。
- ・ 教職員の指示を待たずに児童が自ら判断し行動できたか。

6 避難訓練実施上の留意点

（二次対応）揺れが収まった後、慌てて建物の外へ飛び出すような行動はかえって危険である。運動場が液状化で使用不能な状況や、津波等の被害を想定した集合場所を設定して訓練を行う

ことも重要である。また、大きな余震に対する注意喚起も必要である。

(災害の想定) 学校の地域性を考慮し、想定すべき二次災害からの避難についても計画的に訓練する。(例 津波、余震、出火・延焼・類焼、建物の倒壊、土砂災害、液状化、堤防等決壊による水害、原子力災害、雪害、非構造部材の落下・転倒・移動、避難者、帰宅困難者の対応等)

(実施期日) 季節や天候による適切な場所の設定についても考え実施する。また、日時は、学級指導や教科等との関連指導を念頭に、適切な時期に実施する。

(連携) 可能な場合は近隣学校間、地域防災組織、自治体等の関係機関と一緒に訓練させて自分も地域の一員である自覚をもたせたり、保護者や学童保育への引き渡し訓練を行ったりして、防災意識の高揚を図り、災害時にも落ち着いて行動ができるようにする。

(学年に応じた指導) 児童の実態を考えながらできることをとらえ、「報知音が鳴っても大きな声をださない」→「机の下にもぐることができる」→「落ちてこない、倒れてこない、移動してこないところを見つけて身を寄せる」のように、段階的な指導をし、活かせる技能となるようにする。

資料

- ・「災害から命を守るために」文部科学省・防災教育教材（H20. 3）
- ・「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」文部科学省（H24. 3）
- ・「その時、あなたは どうする！緊急地震速報のしくみと心得」気象庁ホームページ
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/sokuho_dvd/index.html

小学校展開例 17

津波を想定した避難訓練

1 教科等名

特別活動 学校行事

【4 学校行事 (3) 健康安全・体育的行事】

2 ねらい

- (1) 地震後の津波に対して、児童と教職員が安全に避難できるようにする。
- (2) 津波に対しては、命を守るためには素早く避難することが重要であることを理解させる。

3 指導計画

(2時間)

(1) 事前指導 学級指導 (1時間)

- ・地震発生時の場所に応じた安全確保ができるようにする。
- ・いざという時のため、繰り返し訓練し、避難方法を「身につけておく」ことが重要であることを理解させる。
- ・防災頭巾の着用など避難の際、命を守るための具体的な方法を理解する。
- ・津波発生の仕組みを知らせ、高所に避難する意味を理解する。

(2) 本時の指導避難訓練 (0.5時間)

- ・避難先を放送でよく聞き行動させる。建物に生じた段差や転倒・落下している障害物に注意して安全に避難させる。

(3) 事後指導 学級指導 (0.5時間)

※日時は、学級指導や教科の関連内容の指導時期に合わせて実施する。

想定例 授業中に震度6強の地震発生、揺れが収まり10分後に6mの津波来襲。

4 展 開

(1) 事前指導

児童の活動	教職員の指導・指示	資料
1 地震の後に発生する津波の様子を想起する。 ◇地震、そして津波が起こったらどうなるか考えてみましょう。 2 過去に発生した地震や津波の様子と、津波の特徴を知る。	・資料をもとに、津波の怖さと、様々な状況に応じた自身の安全確保の仕方を学習することを把握させる。 ・過去の被害状況などから具体的に地震や津波の恐ろしさを理解させる。 津波の特徴（速く、高く、何度も、川もさかのぼる）を知らせる。	・各自治体のハザードマップ等

3 地震発生後の身の守り方や避難する場所、避難時に注意すべきことを話し合う。	・地震が発生した場合の身の守り方を理解させる。 ・避難経路図を使い、教室からの避難経路を確認させる。また、避難時に注意すべきこと（建物に生じた段差や転倒・落下している障害物に注意等）を理解させる。 ・速やかな高所への移動などが生命を守ることにつながることを指導する。	・「災害から命を守るために」（文部科学省・防災教育教材 平成20年3月）
4 緊急放送と第1次避難の仕方について知る。		

(2) 本時の指導

児童の活動	教職員の指導・指示	資料
5 警報・避難の放送を聞く。 「地震が発生。机の下に入りなさい。」 「津波発生の危険あり。全員直ちに3階へ避難。」 (揺れが納まる前に放送)	・静かに放送を聞かせる。教職員は出口を確保する。 ・地震発生後、放送で津波発生を想定しての避難指示をする。 ・地震の規模により放送が使えない場合もあるので、拡声器で職員室の担当が知らせる場合もあることを知らせておく。	
6 教職員の的確な指示で避難する。 7 上層階に避難し、整列する。	・防災頭巾を被らせる。 ・廊下に並ばせ、教職員が避難経路を確保しながら先導する。 ・時期によって、寒いときには避難後を考え防寒着を着せることもある。 ・速やかに整列させ、人員確認をする。(教頭へ報告)	

(3) 事後指導

児童の活動	教職員の指導・指示	資料
8 防災担当の話を聞く。 9 校長の話を聞く。 10 教室へ移動し、避難訓練の反省をする。	・今回の訓練のねらいを再確認させる。 ・命を守ることの大切さを理解させる。 ・学年に応じて指導内容を確認したり、発展的な内容を指導したりする。 - 低・避難場所（高いところ）を覚えてたか。 - 中・通学時に発生した場合について考えさせる。 - 高・地域の指定避難所や家族との連絡について考えさせる。	・校区地図 ・各自治体のハザードマップ等

5 評価

- ・地震後の津波に対して、児童と教職員が安全に避難できる方法を理解できたか。

- ・地震と津波災害の意味を知り、適切な避難をすることができたか。

6 その他

- ・地震の規模によっては、放送が使えない場合がある。拡声器で避難指示を出すことがあることも考えて訓練に入れることも必要となる。
- ・訓練時期によるが、寒い時期の場合には、避難後を考え、ジャンパー等の防寒着を着せて避難することも必要になる。
- ・上層階でなく学校の裏山に避難するなど、耐震性や地震による被害状況により避難経路や避難場所が変わることがあるため、学校の実態に応じた訓練となるように配慮する。また、地震により火災が発生する場合も想定し、実状に応じた避難計画の複線化を図る。
- ・避難の途中に大きな余震に見まわれることも考慮する。
- ・学校の立地条件、地震の発生状況によっては、津波の第一波が到達するまで数分しかない場合もあるので、特に沿岸部に立地している学校においては考慮する必要がある。

資料

- ・「災害から命を守るために」文部科学省・防災教育教材（H20. 3）
- ・「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」文部科学省（H24. 3）
- ・「津波から逃げる」気象庁津波防災啓発ビデオ（H24. 4）
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html
- ・「津波に備える」気象庁津波防災啓発ビデオ（H25. 2）
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd_sonaeru/index.html
- ・「自分の命は自分で守る～津波災害への備え～」内閣府（H25. 2）